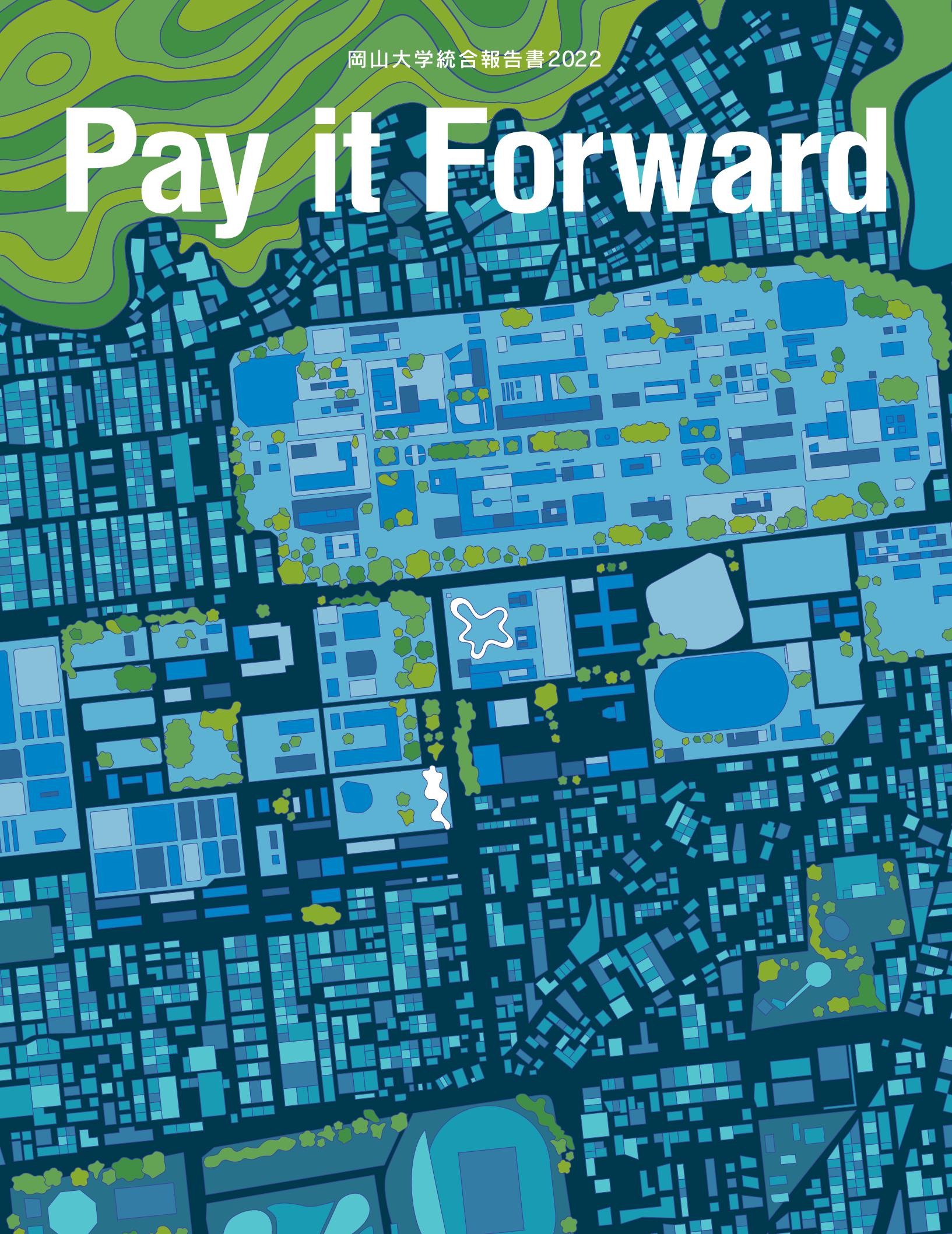
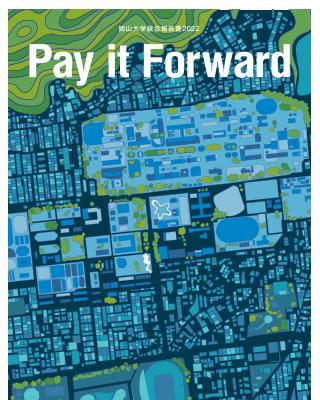


Pay it Forward



目次

| | |
|---|----|
| 学長挨拶 | 02 |
| I. 岡山大学の歩み・ビジョン | 04 |
| 学生×学長 座談会 | 06 |
| 「次世代の夢を実現するために、岡山大学にできることは」 | |
| [コラム] 国吉康雄記念研究寄付講座とは① | 10 |
| II. 戦略 | 11 |
| 教育 | |
| 研究 | |
| 国際 | |
| DX・経営 | |
| 病院 | |
| 特集 | 26 |
| 安全・安心に生活できる未来型シティの創出へ ～デジタル田園都市国家構想～ | |
| [コラム] 国吉康雄記念研究寄付講座とは② | 28 |
| III. 実績 | 29 |
| 教育 | |
| 国際 | |
| 研究 | |
| 産学共創 | |
| 病院 | |
| [コラム] 国吉康雄記念研究寄付講座とは③ | 48 |
| IV. ガバナンス | 49 |
| V. 財務情報 | 56 |



■表紙コンセプト

岡山大学は、サステナビリティとウェルビーイングを追究する研究大学として、地域・世界とのパートナーシップを強化し、ありたい未来の共創に貢献したいと考えています。表紙デザインは、様々なステークホルダーとの志の共有をイメージし、津島キャンパスとその周辺を俯瞰イラストで表現しています。



Pay it Forward

岡山に帝國大学並みの国立総合大学を創りたい。

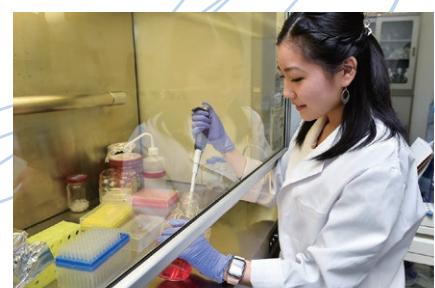
戦後の混乱期にありながら、

地域の皆様の熱意と支援により創られたのが岡山大学です。

創立時から現在に至るまでに受けた皆様からの「ご恩」を次世代に繋げていく。

教育・研究・社会貢献を通じて世界と地域に新たな価値を創造することが、

私たちが考える「恩送り(Pay it Forward)」です。



学長挨拶

次世代と共に拓く 「ありたい未来」

大学にとって最大のステークホルダーは学生です。未来を担う次世代(Youth)である学生たちが主体的に夢をもち、その実現を目指した活動を支援することは大学の重要な本務だと思います。しかし長引くコロナ禍の中で、留学生をはじめ全ての学生たちの活動や交流は制限され、経済的困難を抱える学生も増加しています。さらに地球温暖化による気象災害の頻発やロシアのウクライナ侵攻など、「人類と地球の共存」は可能なのかという人類史上かつてない切迫した状況に立たされています。いま予測される未来は、残念ながら希望に溢れたものとは言えそうにありません。

だからこそ、次世代にこのままの未来を引き継がせるのではなく、次世代が夢に描く「ありたい未来」を共に創ることが求められていると思います。そのためには、私たちが自らと社会の価値観を大きく変容(Transform)させ、社会システムに反映させる必要があります。2022年9月8日の第76回国連総会本会議で、「国連ユースオフィス(UN Youth Office)」設置という決議が採択されました。国連史上初の「Youth」を冠した部局の設置は、今後次世代が責任あるステークホルダーの一員として国連のあらゆる分野に参画するシステムの誕生を意味しています。国連も、これまでの国家という枠組みを越えた次世代による「ありたい未来」のデザインに強い期待を寄せているものと思います。

岡山大学においても、コロナ禍に負けずたくましく活躍する学生たちがいます。学生起業家の登竜門「キャンパスベンチャーグランプリ」で、本学の大学院生2組が、2020年経済産業大臣賞ビジネス大賞、2021年文部科学大臣賞テクノロジー大賞を連続受賞しています。まさにデジタルネイティブのZ世代の学生たちが、社会課題をDXで解決しようと、ベンチャーを起業して新たな価値を生んでいるのです。190カ国以上の代表ユースが集う次世代リーダー育成サミット「One Young World」ロンドン大会では、我が国の代表としてグローバルステージに登壇した学生もあり、「ありたい未来」へのリーダーの役割を果たすことに期待しています。

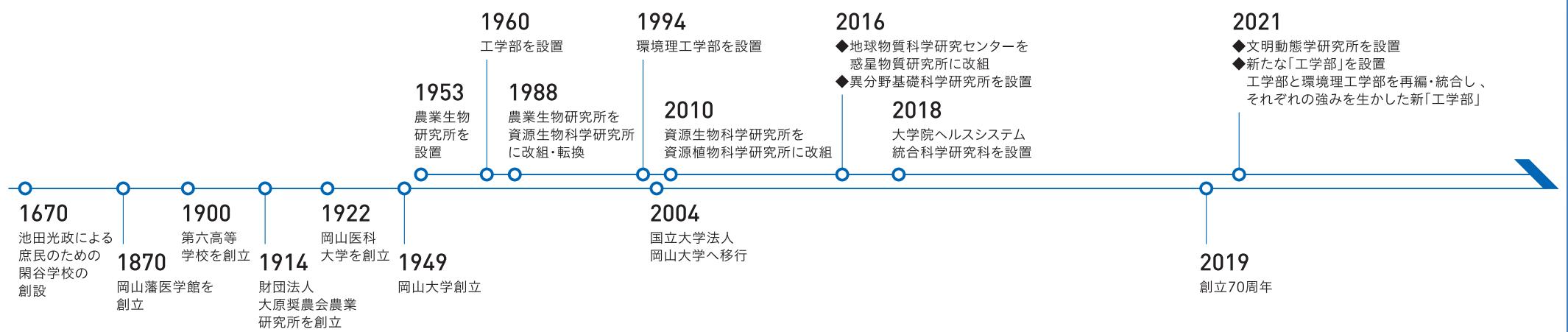
私たちも大学として、こういった学生たちの素晴らしい挑戦や夢を共創する姿勢に学び、本学の第4期中期目標期間における育成すべき人材像として、「主体的に変容(Transform)し続ける先駆者」を掲げました。これからも教職員一同、学生の皆さんと共に「地域と地球の未来を共創し、世界の革新に寄与する研究大学」を目指し成長してまいりますので、引き続きご支援よろしくお願い申し上げます。

岡山大学長 樋野博史



岡山大学の歩み

—地域の歴史から受け継ぐ
“社会課題解決の遺伝子”



2022-2027 第4期中期目標期間 「岡山大学ビジョン3.0」

—ありたい未来を共に育み、共に創る研究大学—
SDGs大学経営: SDGsへの貢献を大学経営の中核に置き、
教育研究・産学共創を一体的に改革して新たな事業モデルを展開

グローバル・エンゲージメント戦略

国際機関等多様なステークホルダーと協働し、
グローバル・エンゲージメントを強化

P20-21

岡山大学DX推進プラン

デジタルトランスフォーメーション(DX)for SDGs

P22-23

教 育

「主体的に変容し続ける先駆者」の育成

- 学士課程教育と高大接続の一体改革
- 大学院教育改革
- リカレント教育の充実

P12-15

研究・ 産学共創

研究成果の社会実装を促進し
社会課題解決

- 若手研究者が自由な発想で挑戦的研究に取り組める環境の整備
- 学内におけるイノベーション創出機能の集約化と強化

P16-19

大学経営

変化に強い強靭な組織へ

- ERMIによるガバナンス体制の強化
- ダイバーシティ&インクルージョンの推進
- インナープランディングの強化
- 大学病院経営の健全化、財源の多様化、自律的な法人経営

P24-25



学生×学長 座談会

次世代の夢を実現するために、 岡山大学にできることは

なぜ岡山大学へ入学し、何を学び、今、どのような未来を思い描いているのか？学生4人と横野学長がJunko Fukutake Hall(Jホール)に集まり、それぞれの夢と岡山大学への思いを語り合いました。

多様な学び方と入学方法が魅力

横野 今日は、皆さんとお話しできるのを楽しみにきました。ここ

Jホールは、福武純子さんが岡山大学に寄贈してくださった建物ですが、どういった思いで建てられたかご存じですか？

宮本 人が集う場、出会いによって新しいものが生まれる。そういった思いが込められた建物ではないですか。

横野 満点の答えです！福武さんはSerendipityという言葉を使われていますが、人々が集まり、新しい出会いがあって、新たなことが生まれてくる場にしたいというコンセプトで、開かれたホールを作ってくださいました。ですから、今日はこの座談会で、新しい何かが生まれればと期待しています。まずは、皆さんが岡山大学を選ん

だ理由を教えてください。

浅野 現在は教育学部に所属していますが、入学時はグローバル・ディスカバリー・プログラム(GDP)^{※1}に入学しました。学部・学科の枠に捉われず、自由に幅広く学びたいと考えたからです。また、高校3年時にOne Young World(OYW)^{※2}に参加したのですが、その時に岡山大学の学生と上席副学長の横井先生に大変お世話になりました。そういう国際的な取り組みもされていて、様々な繋がりができる大学というところに非常に魅力を感じたからです。

横野 棚井さんは、国際バカロレア入試(IB)で受験されましたよね。岡山大学が国立大学で最初にIB入試を導入したのはご存じですか？

棚井 はい、私は岡山大学歯学部に初めて入学したIB生です。父がアメリカの大学と大学院を卒業するなど、両親とも海外での経験があり、マルチナショナルに学んでほしいという考え方から、1歳からインターナショナルスクールに通っていました。海外の大学で勉強するか、日本で学ぶかと悩んでいた時に、IB入試推進室室長のサビナ先生が来校されてお話を伺う機会があり、その後、岡山大学を訪問したのがきっかけで入学を決意しました。

宮本 私は工学部を卒業後、自然科学研究科に進学しました。大学の選択基準として、文理系揃った総合大学に行きたいという想いがあり、それは理系の学生だけで集まると思方が固まってしまう気がしました。また、グローバル人材育成特別コース(Gコース)^{※3}にも惹かれました。高校時代から得意だった英語をもっと伸ばしたい、いろいろな人と関わり合いたいと考えていた私には最適な大学だと選びました。

横野 チーチーターさんはミャンマーのご出身ですね。国土が広く、多くの民族がいて話す言葉も違う、まさに多様性の国ですよね。

チーチーター 私はミャンマー北部カチン州のラワン族という少数民族の出身です。ミャンマーの大学で日本語を勉強し、さらに経済について学びたいと留学を決めました。岡山大学を選んだ理由は2つ。1つは大学院予備教育特別コース^{※4}があり、日本語も勉強しながら大学院を受験する準備ができること。もう1つは、東京や大阪といった都会と違い、岡山という街もキャンパスも落ち着いた環境が私に合っていると思ったからです。

※1 海外留学生、帰国生などと英語を共通言語として一緒に学ぶ国際プログラム

※2 世界190ヵ国以上から各国を代表する次世代の若いリーダーたちが一堂に会するグローバルサミット

※3 入学した学部に所属しながら履修でき、広く世界で活躍できる英語力、グローバル教養・専門性や実践力を身につけることを目指す特別コース

※4 岡山大学大学院への進学を希望する外国人留学生を対象に、大学院での研究で必要となる日本語能力の指導および支援を行うプログラム



大学での学びで社会の課題を解決

横野 皆さんいろいろな夢を持って岡山大学に来ていただいているが、チーチーターさんの夢は何ですか？

チーチーター 最初は経済分野でのラワン族初の博士号を取得することを目標でした。でも日本に来て、自身が多くの方々に支えられていることを感じ、その恩返しがしたい、社会に貢献できる人になりたいというのが今の夢になりました。経済学者となって、ミャンマーとラワン族のためにはもちろん、日本にも貢献できる人になりたいです。

横野 私も多くの先生や周りの人にサポートしていただいていると感じています。まずは、歯学部や大学にその恩返しがしたいですし、将来的には研究を通して世界の医療の発展に貢献したいと考えています。また、今年9月のOYW日本代表に選抜されたので、そこでの経験をぜひ大学に還元したいと思っています。

浅野 やりたいことがあります。地域の活性化」「農業をもっと知ってほしい」「自己肯定感の高い子どもたちを育てたい」の3つが軸です。私は四国最西端の愛媛県佐田岬半島の出身で、地域の活性化は高校時代から継続的に取り組んでいて、生涯携わりたいと思っています。農業については、ものづくりの素晴らしさを発信することが地域の人々と繋がり、活性化できる手法になるのではと考えています。子どもたちに関しては、田舎と都会では環境面などで大きな違いがありますが、故郷に誇りを持ってほしいと思っています。現在、NPOに所属してグローカルリーダー育成プロジェクトのお手伝いをしています。

横野 宮本さんは、私が審査員を務めた「岡山イノベーションコンテスト2020」の大学・専門学生の部で大賞を受賞されました。そして、将来の夢というより現在進行中で、同じく岡山大学出身の長島慶樹さんとAIベンチャーの株式会社TechSwordを起業されました。これはどのような会社ですか？





ここで本当にグローバルな人材になれるのだろうかと疑問を感じています。取り組み自体はとても素晴らしいと思うのですが、もう少しカリキュラム内容を深めた方がより学生のためになると思います。

楳野 グローバル人材の育成というコンセプトに対して実際の内容が伴っていないというご指摘で、どういった人材を育てるか、コースの位置づけも含め、しっかりと考えてより進化させていかないといけないですね。

浅野 私は1年次から「研究」について理解できる授業や課外活動があればいいと思います。3年次の後半になって初めて論文を見て分析するのは難しいし、たった1年で詰め込んで卒業研究・論文を作るのはもったいない気がします。スーパーサイエンスハイスクールに代表されるように、研究に関心がある高校生も多いですし、入学してすぐ自分の興味があることに取り組めることは大学のアピールに繋がると思います。

宮本 研究施設の面でも、授業の面でも、岡山大学のリソースは十分揃っています。以前、教養教育科目で歯学部の先生による授業を受けて気づいたのですが、総合大学で医歯薬が揃っている大学は意外に少ない。非常に多くの学部があって、その中から自分の好きな授業を選べる。これは本当に恵まれた環境だと思います。ただ、高校時代の自分はそれを知りませんでした。こんな研究ができる、こんな学生がいる、岡山大学に行くとこういう存在を目指せる。そういうことを高校生が知る機会や、大学生と触れ合える接点を増やせば、岡山大学を意識してくれる高校生が増えるのでは。それを首都圏とかでやれたらいいなと思います。

楳野 チーチーターさんは留学生の立場から、岡山大学が海外の学生さんに選ばれるためにはどうしたらいいと思われますか？

チーチーター 日本の文化は独特なので、馴染めずに精神的な問題を抱える留学生もいるようです。日本の大学が選ばれるには勉学面だけ

でなく、生活面でのサポートも充実させてほしいと思います。また、学部の授業を英語で行うのは厳しいかもしれないですが、大学院では英語で学べるコースをもっと増やすと、優秀な留学生を集められると思います。日本の大学の教育の質は、オーストラリアやシンガポールといった国と差はないと思いますが、日本語を学ばないといけないので余分な時間やコストがかかる分、別の国に行ってしまう留学生がいるのではと気になります。

楳野 岡山大学は文部科学省の「スーパー・グローバル大学創成支援事業」に採択されており、その中で大学院での英語授業科目を増やすことに取り組んできましたが、まだ十分ではないということですね。専門知識に関して教える体制はできていますが、個々の学生に対する様々なケア、特にメンタルケアの部分はまだまだ、私たちが当たり前にしている生活文化でも、海外の人には馴染めないことがあるので、サポート体制を充実させていかないといけないですね。



部学生の間に研究に触れる機会があり、さらにその思いが強くなりました。

楳野 夢は与えられるものじゃない、自分で発見するものであって、またどんどん変わっていくものなので、大学は夢を見つけられる、育める場所であるべきということですね。

浅野 私も最初はGDPに入学して、そこから教育について専門的に学びたいと思い教育学部に転学部しました。やりたいことがコロコロと変わるので、転学部システムがあることに本当に救われました。ただ、やはり周りの人と異なる選択をすることは非常に不安が大きいため、もっと学生の挑戦を認めてくれる、より柔軟にサポートしてくれる土壌が欲しいと実感しています。

チーチーター 先日まで先生と共同研究をしていましたが、それが自分の本当にやりたいことはズレがあったと終わってから気付きました。でも、研究の手法は全て学べましたし、本当に興味がある分野を見つかったので、努力は無駄じゃなかったです。いろんな知識が積み重なって今の自分がるので、学んで良かったなと思っています。

棚井 私は挑戦をすることが最も大切だと思います。失敗を恐れず挑戦することは、結果がどうであっても、大きな成長に繋がると思います。何もやらなかつたら失敗することはないですが、成長のために挑戦は必要だと思います。

楳野 本日は、大変貴重な意見や話を聞かせていただくことができました。私にとっても岡山大学にとって非常に有意義な時間になりました。今年の7月から、宮本さんは東京に行かれると伺っています。向こうに行っても、ぜひ頑張っていただきたいです。また、皆さんも引き続き岡山大学で様々なことにチャレンジし、活躍されることを期待しています。ありがとうございました。

全員 ありがとうございました。



学びたい、に応えられる場所に

楳野 岡山大学で学ぶ皆さんの立場から、これからも本学が学生に選ばれる大学であるためにはどうあればいいか、ご意見をいただけますか？

棚井 私はGコース生ですが、どういった人材がグローバルな人材かが明確に定義づけられていないように感じています。実際にコースを受けてみて、教養教育科目でも受講できる内容ですし、単位としては多めに取らないといけないのですが、その数単位を取得する

コラム | 国吉康雄記念研究寄付講座とは

1



Installation photography of The Artistic Journey of Yasuo Kuniyoshi, Smithsonian American Art Museum, 2015,
Courtesy of Smithsonian American Art Museum; Photo by Mildred Baldwin.
展示された国吉康雄作品は《逆さのテーブルとマスク》1942年 / 福武コレクション蔵(2015)

国際的画家の故郷・岡山に

明治憲法が発布され、パリにエッフェル塔が建ち、
チャップリンやハイデガー、ハップルらが誕生した年に、
岡山に生まれた偉大な画家がいる。
そして2015年。
その画業と人生に関する大回顧展が、アメリカ合衆国の首都にある国立美術館、
スミソニアン・アメリカン・アート・ミュージアムで開催された。
主役の名は国吉康雄(1889-1953)。
40万人が彼の作品を目の当たりにした、同じ年。
岡山大学に「国吉」の名を冠し、
美術教育と地域創生を掲げたプロジェクトが、人文系初の寄付講座として設置された。
それが、国吉康雄記念研究寄付講座だ。



「主体的に変容し続ける先駆者」の育成を実現する教学マネジメントの構築

「共育・共創」の研究大学として、学修者本位の教育体制と環境を実現する
入試・学士課程・大学院課程の一体改革。



第3期の振り返り

2014年に文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援事業」に採択されたPRIMEプログラムは、「世界で活躍できる『実践人』の育成」を目標に掲げています。2016年度からの第3期は、学生が3つの基幹力(教養力・語学力・専門力)を習得し、3側面(異分野・異社会・異文化)の経験を、グローバルな現場で実践させる3×3教育を開いてきました。異分野融合と実践型社会連携教育を推進とともに、異文化体験の環境も整えました。第3期末には、留学生と学生の交流言語カフェ“L-café”的累計利用者は延べ170,000人を超え、高度実践人の認定者は2,037人となっています。

2017年10月には、海外生と国内生が共に学ぶ学部・学科横断型教育プログラム「グローバル・ディスカバリー・プログラム」がスタートし、これまで31ヵ国から292人の学生を迎えていました。2018年度には、文理横断・医工連携の大学院ヘルスシステム統合科学研究科を設置しました。

2019年度からは、SDGs推進研究大学として、Society 5.0 for SDGsの時代を拓く教育にリ・デザインし、EdTechの活用、数理・データサイエンス教育を推進するとともに、教学ガバナンス強化のために、Center for Teaching Excellence(CTE)部門を設置しました。

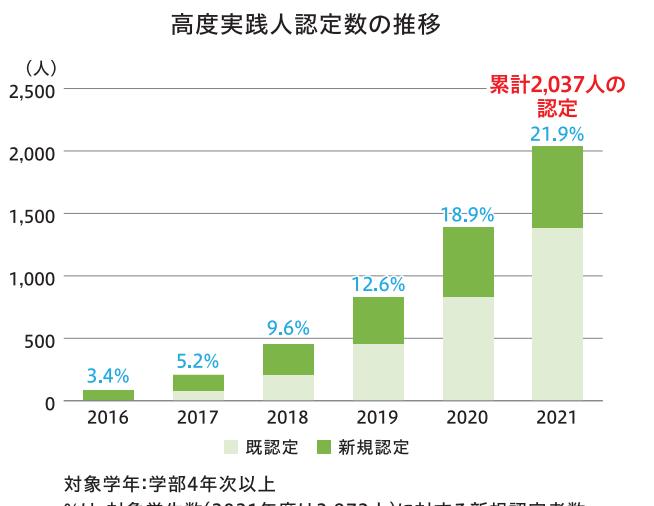
2021年度には、工学部と環境理工学部の再編統合を行い、Society 5.0 for SDGsの実践的教育を担う新「工学部」を設置しました。

入学者選抜では、国内外から、グローバル社会での活躍を志す多様な背景と経験を持つ志願者の選抜を行ってきました。国立大学で初めて導入した国際バカロア入試は、文部科学省「大学教育再生加速プログラム」にも採択され、2021年度には全学部で定員化されました。グローバル・ディスカバリー・プログラムでも独自の総合型選抜を行っています。

また、第3期後半における長期間のコロナ禍は、学生生活と、教育研究活動や正課外教育に大きな影響を与えました。ウイズコロナ・ポストコロナ期となる第4期に向けて、オンライン教育の質保証やデジタルを活用した学修成果の可視化、第3期における異分野融合や文理横断の教育成果の検証を行うとともに、学修者本位の教育の開発など、引き続き取り組むべき課題が残っています。



- 1 グローバルに通用するリベラル・アーツ教育と英語で語れる語学力強化**
日本人のアイデンティティ形成 自分の考えを語れる語学力の育成
- 2 グローバルな現場で通用する実践知を涵養する教育**
現場を体験し、課題を解決して適切な判断をくだす能力を修得
互恵性を保持し、地域のみならず国際社会との連携教育を全学的に展開
- 3 基盤知識・行動をベースとした国際社会に繋がる橋渡し専門教育**
総合大学の強みを生かし、多様な専門知識を有した人材を育成



第4期の取り組み

第4期には、「ビジョン3.0: ありたい未来を共に育み、共に創る研究大学」の下、養成する人材像として、新たな価値創造と世界の革新に貢献する「主体的に変容し続ける先駆者」を掲げます。

入学者選抜では、「本学への入学を強く志す者にこそ本学で学んでほしい」とのメッセージを志願者に届けるとともに、多面的・総合的な評価を行う特別選抜(総合型選抜、学校推薦型選抜、国際バカロア選抜)の募集定員を2022年度に実施する入試から増員(後期日程の募集停止)します。いわゆるペーパーテストなどの「学力検査」では測定困難な能力を見極め、入学前に培われた能力とSDGsなど地球規模の課題を解決する意識や行動力を持つ志願者を積極的に選抜します。

主体的・対話的で深い学びを重視する新たな学習指導要領で学んだ高校生が2025年度以降大学に入学することに伴い、教員による授業や学生間の学びを通して、学生が「何ができるようになったか」が重要視され、これまで以上に学習者中心(Learner-Centered)の学びへの移行が求められます。

本学は、「Target2025」を掲げ、教養教育改革を推進します。所属学部の枠を超えて全学部生共通に求められる汎用的技能養成を目的とした「全学共通科目」を設定するとともに、「Learn how to learn」をコンセプトに授業科目群を開設します。また、聞く、読む、話す、書くを統合した総合的英語力や数理・データサイエンスの知識・スキルを学士・修士課程を通して主体的に伸ばす仕組みを構築します。

さらに、2022年度から教育推進機構への改組と教学企画室の新設を通して教学ガバナンスの強化に取り組みます。これらを通して、学士・修士課程の教育、および社会と大学院を結ぶ教育(リカレント教育含む)をより高次元で繋いだ「共育の環」および「共創の環」を形成します。学びと省察のサイクルを効果的に循環させ、知識基盤型社会と予測困難な時代に、主体的に学び続ける人材の育成に取り組むことで、学修成果を重視する学修者本位の教育体制と環境を研究大学に相応しい姿で実現します。

| 岡山大学の理念「高度な知の創成と的確な知の継承」 | | | | |
|-----------------------------------|---|--|--|--|
| 岡山大学の目的「人類社会の持続的進化のための新たなパラダイム構築」 | | | | |
| ビジョン | 2016～2018 岡山大学ビジョン 聖域なき組織横断型改革 世界に向け、創造的な知の成果・ 技術の結実を発信し、 社会のイノベーション創出 | 2019～2021 岡山大学ビジョン2.0 岡山から世界に、新たな 価値を創造し続ける SDGs推進研究大学 | 2022～2027 岡山大学ビジョン3.0 ありたい未来を 共に育み、共に創る 研究大学 | ～2050 岡山大学長期ビジョン 地域と地球の未来を 共創し、世界の革新に 寄与する研究大学 |
| ミッション | 第3期 現場で適切な判断ができる実践知をもつ 世界で活躍できる「実践人」 | 世界共通の課題SDGsの達成に貢献する | 第4期 新たな価値創造と世界の革新に貢献する 主体的に変容し続ける先駆者 | |
| つける 身に 力 | 1.教養 2.専門性 3.情報力 4.行動力 5.自己実現力 | | 1.実践力 2.探究力 3.コミュニケーション力 4.専門力 5.教養力 | |
| 戦略と 取り組み | 国際社会や地域社会と連携した実践的 教育と、世界の異文化を深く体験する グローバルな教育を含む異分野連携 教育の展開による「学びの強化」 | Society 5.0 for SDGsの時代を拓く教育にリ・デザイン ①Society 5.0時代の「学修者主体の学び」のための自律的学修環境整備 ②異分野連携教育の展開 ③大学院教育の国際化加速と、リカレント教育を通じた「社会」と「学び」の持続的接続 ④学修者本位の学びに繋がる学修成果の可視化・公表 | 「主体的に変容し続ける先駆者」の育成を実現する 教学マネジメントの構築 | ①学士課程と高大接続の一体改革(Target2025) 新学習指導要領で学んだ学習者が入学する2025年度に合わせた高大接続・学士課程教育の一体改革により、「何を教えたか」から「何ができるようになったか」への構造転換 ②共育共創の大学院教育改革 学部教育および社会の現場を、大学院生の学びの場として捉え、高度協働学習(共育の環・共創の環)を基盤とした新たな大学院教育の開発 ③リカレント教育の充実 本学が持つ強み・特色を活用して、社会的ニーズの高いリカレント教育プログラムを展開 |

学生たちの声 -2021年度 岡山大学第7回学生生活実態調査から

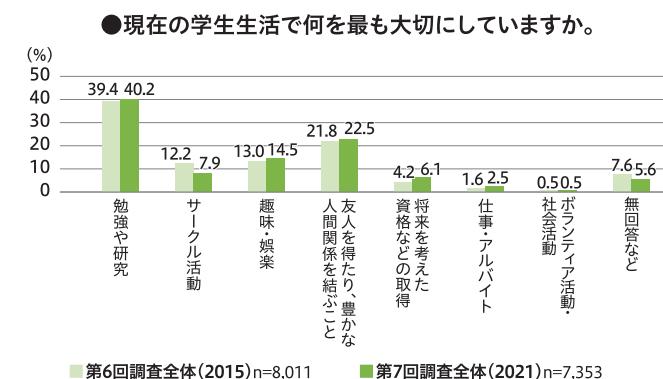
2021年度に調査した岡山大学学生生活実態調査から、コロナ禍の中での学生たちの声を届けます。

学生生活と満足度

2021年度の調査では、学生生活に関する様々な質問を行いました。最も大切にしているものは、「勉強や研究」、「豊かな人間関係を結ぶこと」が高く、また、現在の悩みについては、「進路・適正」、「学業の問題」、「就職」が突出して高い結果となりました。

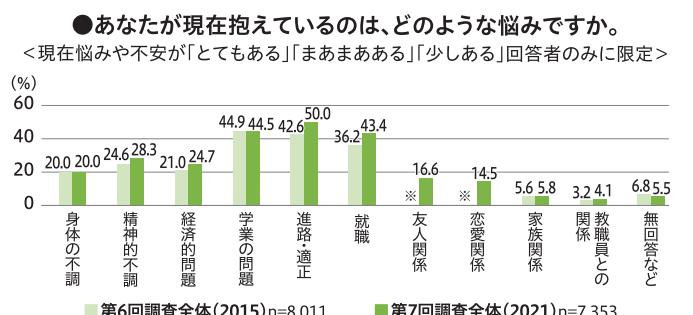
本学では、進路や就職活動支援として、対面指導に加えオンラインでの個別相談やガイダンス・支援イベントを実施しています。学生相談室や障がい学生支援室では、オンライン相談体制を整備し、学生の悩みや不安解消に向けた取り組みを行っています。

次に、自主学習・研究に費やす1日あたりの平均時間では、前回調査(2015年)と比べて1時間以上学習している人が、学部生では



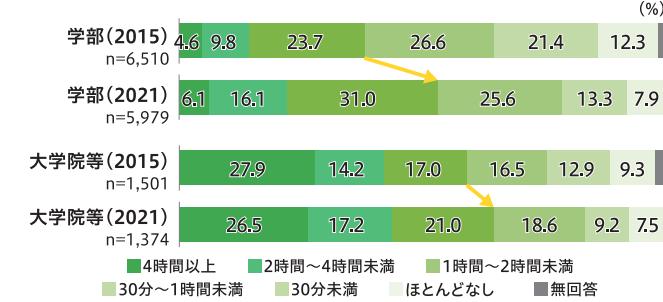
15.1%、大学院生では5.6%増加していました。一方、継続してアルバイトをしている学生の1週間の平均従事時間は、前回調査(2015年)と比べて増加しています。経済的問題が影響しているのかもしれません。

また、本学での「教育・研究への満足度」では、前回調査(2015年)と比較して全体的に向上しており、大学として学生支援の充実を図ってきた成果が一定程度認められる結果となりました。自由記述では、学内Wi-Fi接続状況など施設・設備に関する要望もありました。今後も学生たちが充実した学生生活を送ることができるよう、学生ニーズに即した支援を行っていきます。



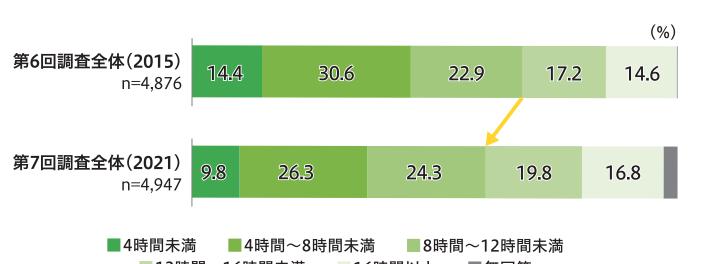
*友人関係及び恋愛関係は、第7回調査(2021)からの新規選択肢のため、第6回調査(2015)では発生せず。
(第6回調査(2015)では「友人関係」と「恋愛関係」を統合した「友人関係や恋愛関係」という選択肢を設けており、第6回調査(2015)全体では27.5%であった)

●ふだん1日あたり平均何時間くらい自主学習・研究に費やしていますか。



●1週間のアルバイト平均従事時間は何時間ですか。

<本学入学後アルバイトを「継続的にしている」回答者のみに限定>



●自分が行っている研究活動に満足していますか。



リアルタイム型授業とオンデマンド型授業 ～学生からの声～

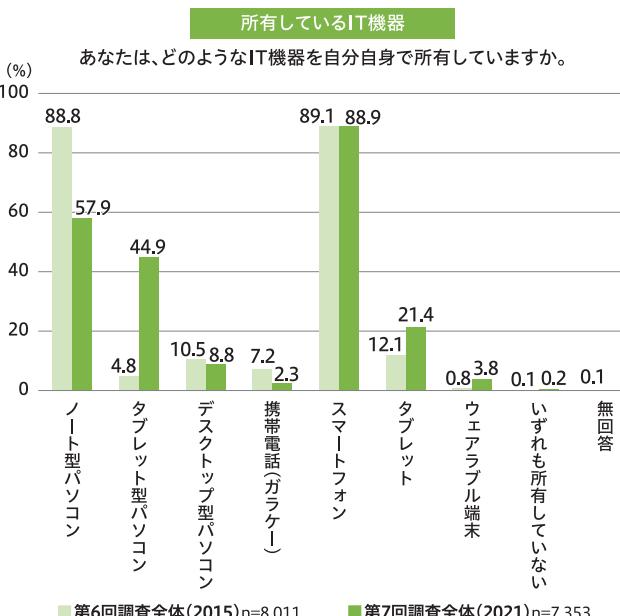
リアルタイム型授業・オンデマンド型授業は、「対面授業よりも理解しやすかった」と回答した学生は、それぞれ13.1%、21.4%でした。リアルタイム型授業では「自分の選んだ場所で授業を受けられた」、オンデマンド型授業では、「自分のペースで学修できた」が良かった点の1位にそれぞれ挙げられました。

学生からの声として、「対面授業がなかったせいで友人ができなくて困っている」として、対面授業を増やして欲しいという声がある一方、「対面授業よりもディスカッションや発表を取り入れたものが多く充実している」として、オンライン授業に満足している声がありました。また、「1日に対面授業とオンライン授業があると、授業を受けるのに不便である」という声もありました。

今後は、対面授業を原則としながら、オンライン授業(リアルタイム型・オンデマンド型)で培ったノウハウを活かして、より効果的なICTを活用した教育を推進します。



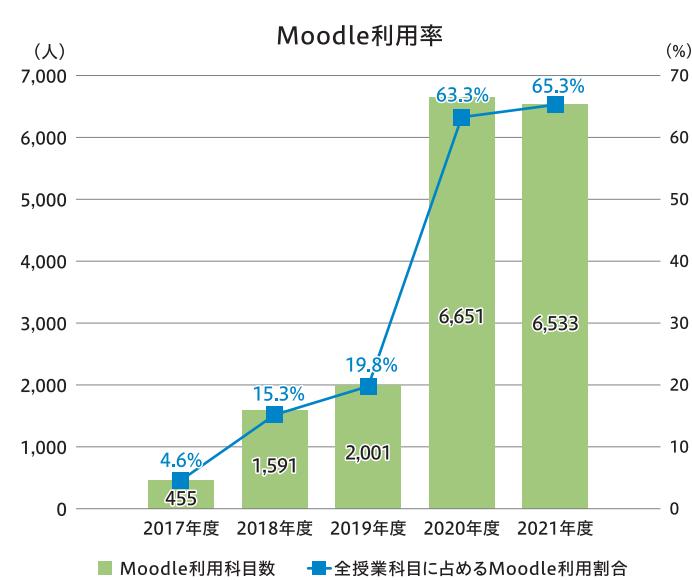
オンライン授業実施風景



対面授業実施風景

LMS(学習管理システム)

本学では、ICTを活用した授業を行うための基盤としてMoodle (LMS:学習管理システム)を2017年度より本格的に導入しました。2019年度までの教員の授業におけるMoodle利用率は、20%未満でしたが、2020年度には、新型コロナウイルスの流行によりオンライン授業でのニーズが高まったことで、60%を超える利用率となりました。また、さらにICTを活用した授業を推進し、オンライン授業の質の向上及び学生の満足度向上を図るために、EdTechサポートオフィス授業実施支援チームの設置や学内Wi-Fi環境の整備を行いました。



IRによるエビデンスに基づいた研究戦略

「強み特色分野」にリソースを投資し、世界トップ研究拠点の構築を図り、研究界の国際サークルとしのぎを削る。

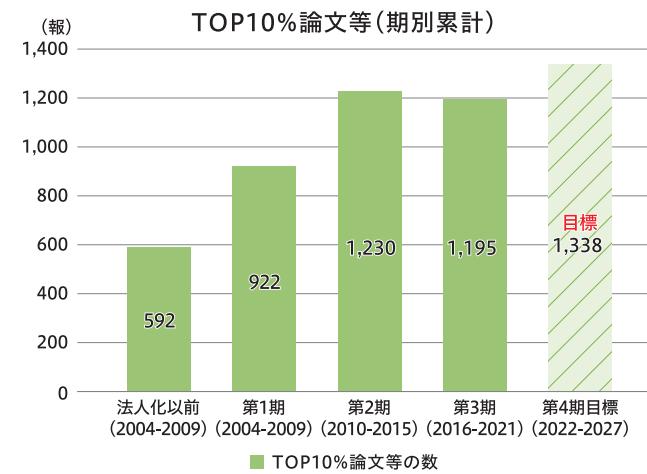
第3期の振り返り

研究IRによるエビデンスベースの研究戦略に基づき、リソースの重点配分の観点から重点研究分野を選定し、これらを世界的な研究拠点に育成するため「次世代研究拠点形成支援事業」(2021年3月現在9拠点)を実施しました。

また、2018年度、学長直轄の「大学改革促進のための国際研究拠点形成プログラム(RECTOR)」を創設しました(創設時、「量子コヒーレンス」、「光合成」、「分子イメージング」、第2期、「宇宙物理データ解析」、「トランスクリプトーム」の現在5プログラム)。本プログラムは、欧米等先進国で活躍する優れた研究者を招聘し、本学研究者・若手研究者による国際共同研究の中から、世界を意識し、国際トップサークルの中での研究力強化を加速させています。



※RECTORプログラム5拠点、次世代研究拠点形成支援事業グループ代表者48人、研究教授・准教授28人の業績を集計。増加額、増加率は対2016-2018年の値



さらに、若手研究者支援の観点から、2018年度から高い研究業績のある若手研究者(准教授)を「研究教授」(2022年4月現在14人付与)と認定し、外部資金の獲得の努力を求める一方、研究費に関するインセンティブ・研究専念支援等を行っています。2020年度にはこの取り組みを講師・助教へ拡充した「研究准教授」制度(2022年4月現在14人付与)と「若手研究者育成支援パッケージ」を創設・実施しています。

これらの成果については、以下に示す通り、投資額以上の外部資金の獲得及び論文数等の業績が顕著に増加しているところであり、第4期中期計画期間への研究力強化の“起爆剤”として、さらに加速させていきます。

第4期の取り組み

岡山大学ビジョン3.0

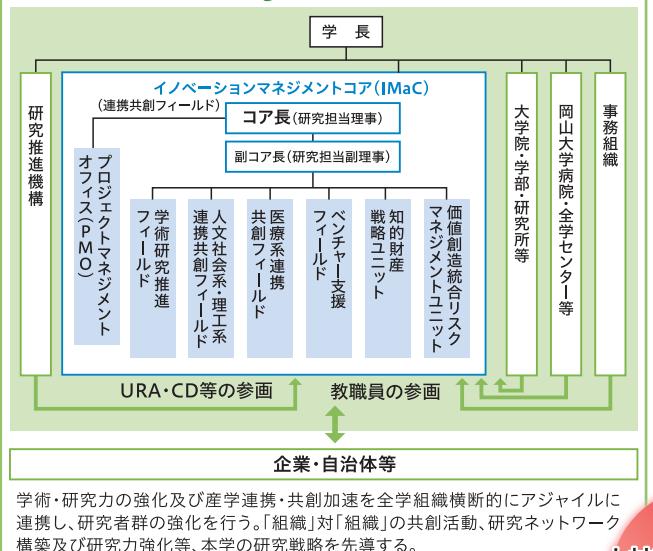
「ありたい未来を共に育み、共に創る研究大学」実現に向けて、

- ①「強みは、“さらに強く・高く”」、②「特色をより“極める”」、
- ③「知と資金の好循環により研究地盤の強靭化」に取り組みます。

社会課題の解決及び社会改革の実現に寄与するため、研究IRに基づき、本学の強みである研究分野を中心とした、国際研究拠点及び次世代研究拠点を形成・発展させていきます。そのために、人材・知・資金の好循環によるイノベーションエコシステムを構築するために、学内におけるイノベーション創出機能の集約化と強化による戦略的活動を実施する組織を構築・運営します。

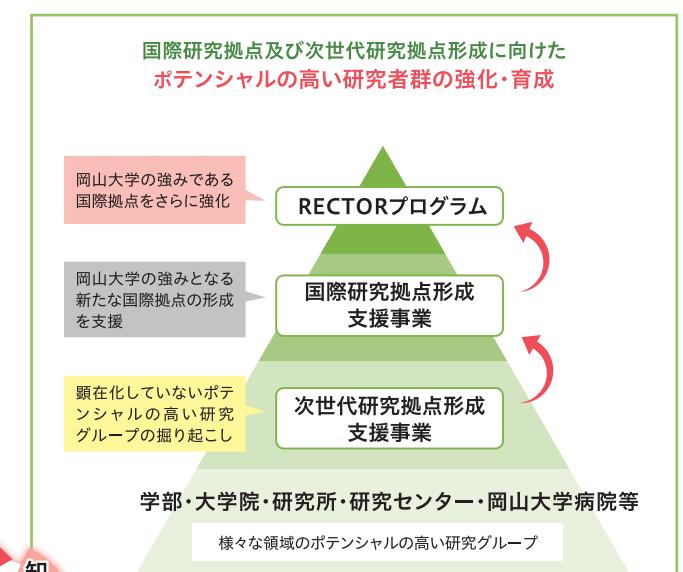
また、次世代に向けて、研究力の持続的な発展のため、博士後期

IMaC(Innovation Management Core)による研究マネジメント

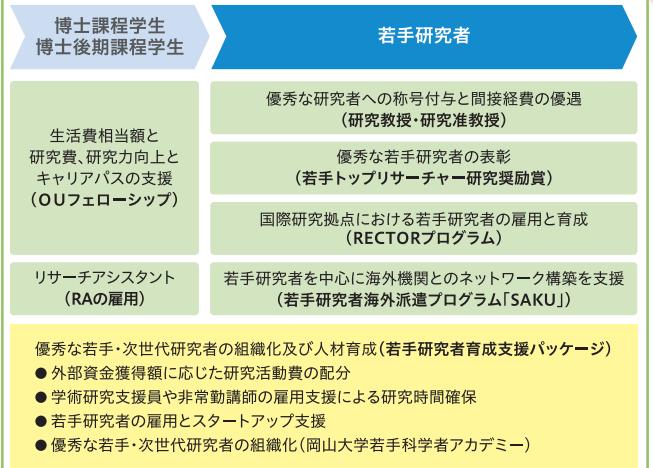


課程学生の処遇向上並びにアカデミア及び産業界を含めた、多様なキャリアパスの確保を図るとともに、優れた若手研究者の活躍を支援し、自由な発想で挑戦的研究に取り組め、その能力を最大限発揮できる魅力的な研究環境を整備・維持します。なかでも、国内だけでなく、国際的に活躍できる研究者を育成するために、国際頭脳循環を積極的に推進します。

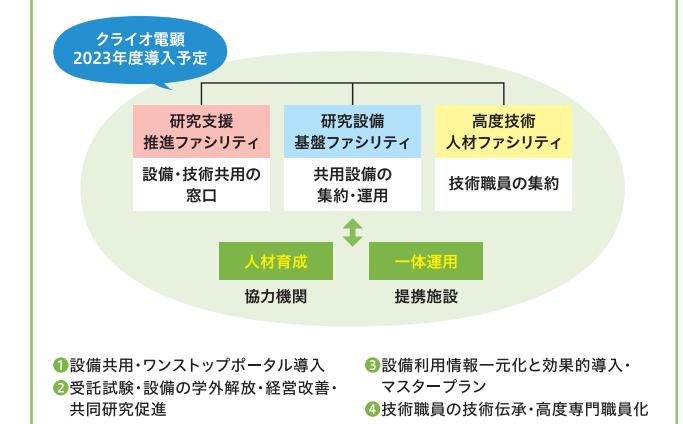
さらに、研究設備・機器の全学的なマネジメントによる戦略的な整備・共用等を進めるとともに、大学(アカデミア)の枠を越えた保有資産の共同利用等を推進し、地域・社会・世界に一層貢献するための機能強化を図ります。



若手研究者の活躍促進(研究時間の確保と挑戦できる環境を構築)



2023年度コアアソシエイト創設 (意欲あふれる研究者に研究機器の恩恵を。 最先端の設備・機器のシェアリングによる好循環)



世界的研究拠点形成と戦略的・組織的産学共創

強み・特色のある研究分野へ戦略的支援により、研究界の国際トップレベルサークルへの参画を促進し、国際研究拠点を目指す。



重点研究分野を強化し、世界的な学術拠点へ

本学の研究面における国際競争力を向上させるために、URA(リサーチ・アドミニストレーター)による、研究IRにより「重点研究分野(3領域15分野)」を選定し、世界的研究拠点に育成する施策として、「次世代研究拠点形成支援事業」、「国際研究拠点形成支援事業」(2022年度創設)及び「大学改革促進のための国際研究拠点形成プログラム(RECTOR)」を展開する中でリソースの戦略的配分を行っています。

第4期中期目標期間においては、これらの取り組みを一層加速させ、第3期中期目標期間に比べ、TOP10%論文を10%以上、国際共著論文を15%以上増加させることを目指しています。

なお、Clarivate Analytics社(旧トムソン・ロイターIP&Science)が発表した高被引用論文著者リスト(Highly Cited Researchers)2021年版において、資源植物科学研究所馬建峰教授と山地直樹准教授、及び異分野基礎科学研究所の沈建仁教授が「世界で最も影響力のある科学者」に選出されました。

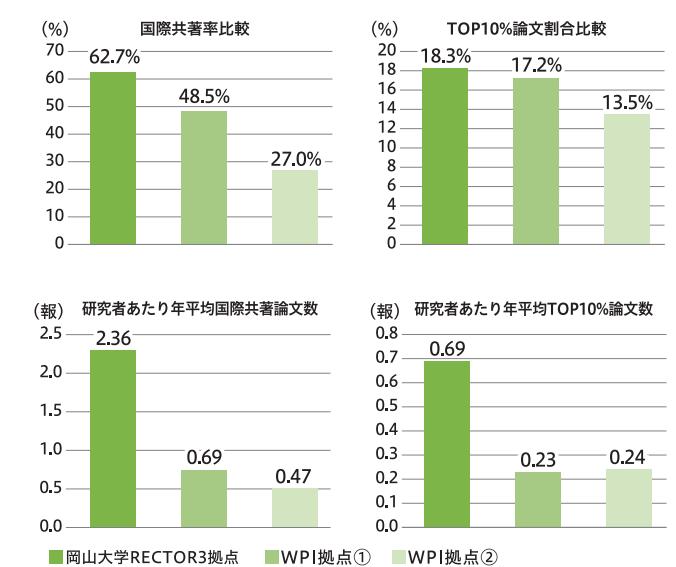
馬建峰教授は2015年版から7年連続、山地直樹准教授は6回目の受賞という快挙です。



Photo: Markus Marcetic, ©The Royal Swedish Academy of Sciences
沈建仁 異分野基礎科学研究所長がグレゴリー・アミノフ賞を受賞。
スウェーデン国王からの賞状とメダルの授与を受ける
(2022年6月ストックホルム市庁舎にて)

RECTORプログラム(先行3拠点:量子コヒーレンス・光合成・分子イメージング)とWPI拠点との比較

| | 岡山大学 RECTOR3拠点 | WPI拠点① | WPI拠点② |
|---------------------|-------------------|------------|------------|
| 分野 | 物理・植物・医療 | 生命科学・超分子化学 | 化学・計算・情報科学 |
| 開始年 | 2019年 | 2017年 | 2018年 |
| 論文数(A) | 169 | 389 | 324 |
| 国際共著論文数(B) | 106 | 181 | 94 |
| TOP10%論文数(C) | 31 | 61 | 47 |
| Q1ジャーナル論文数(D) | 139 | 341 | 284 |
| FWCI | 1.55 | 1.42 | 1.9 |
| 国際共著率(B/A) | 62.7% | 48.5% | 27.0% |
| TOP10%論文割合(C/A) | 18.3% | 17.2% | 13.5% |
| Q1ジャーナル論文割合(D/A) | 82.2% | 77.2% | 81.6% |
| 研究者数(F) | 15人 | 87人 | 66人 |
| 研究者あたり年平均論文数 | 3.71 | 1.49 | 1.64 |
| 研究者あたり年平均国際共著論文数 | 2.36 | 0.69 | 0.47 |
| 研究者あたり年平均TOP10%論文数 | 0.69 | 0.23 | 0.24 |
| 研究者あたり年平均Q1ジャーナル論文数 | 3.09 | 1.31 | 1.43 |



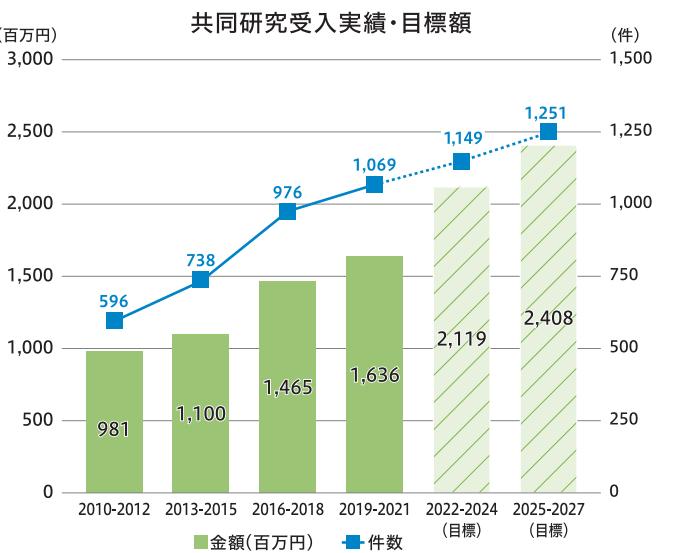
※RECTORプログラム先行3拠点(量子コヒーレンス・光合成・分子イメージング国際研究拠点)では、規模補正(論文割合・FWCI・研究者あたり)した論文指標は全てWPI拠点を上回っている(データは2021年11月現在)

きらりと光る次世代研究者が、着実な成果創出により、知のグローバルリーダーへ

科学技術イノベーション基本計画において、優秀な若手研究者が、将来の活躍の展望を描ける状況で、時代の要請に応じた「知」のグローバルリーダーとして、研究時間を確保の上、自らの人生をかけるに値する価値を見いだし、独立した研究者となるキャリア構築が重要とされています。本学における、第3期中期目標期間における若手研究者の状況を鑑みると、若手研究者数:26%減、若手研究者の総論文数:6%減という状況です。第4期中期目標期間において、岡山大学の研究力強化のために、次世代を担う優秀な若手研究者による研究アクティビティの向上が必要不可欠であり、そのため、人材・資金・環境の好循環を図り、本学独自の若手研究者支援パッケージを拡張させ、さらなる魅力ある研究環境(生活支援・研究資金・研究専念体制等)と失敗を恐れない、破壊的イノベーションの創出を目指す風土の構築を図り、優秀な人材確保と持続的な研究力強化を展開したいと考えています。

産学共創のオープンプラットホームの確立 (アジャイル型手法を活用した研究革新)

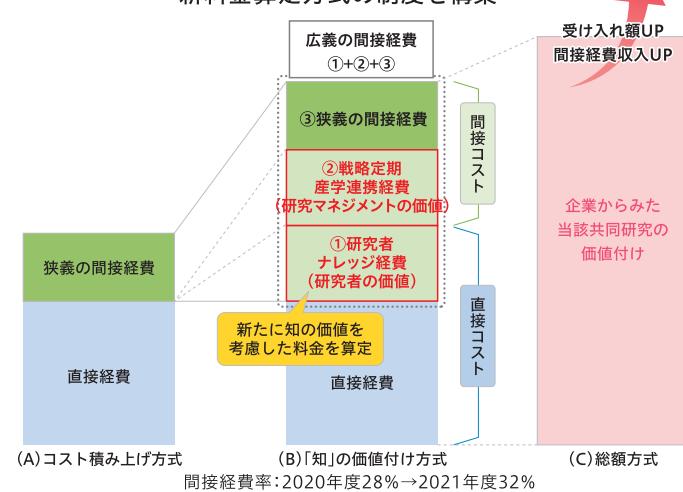
2020年度に採択されたイノベーション創出環境強化事業は、第4期中期目標期間を見据えた大学改革に向けた要の施策であり、既成概念にとらわれない大胆な制度改革、リソースを収益に転換する意識改革などの戦略をスピード感を持って推進してきました。この先導役として2021年10月に創設したIMaC(イノベーションマネジメントコア)により、学内の組織を越えて結成したアジャイル型のプロジェクトチームを編成し、組織対組織の産学共創に取り組むこと



で、新たな価値創造に向けての迅速化・機動性を図りました。IMaCの取組により、コロナ禍のなか、民間からの共同研究は順調に増加しています。

第4期中期目標期間においては、IMaC機能の拡充、プロジェクトマネジメント手法の徹底、医療系の産学共創機能の導入等を取り入れ、第3期中期目標期間に比べ、民間からの共同研究受入額の30%増加を目指しています。

「産学官連携ガイドライン」に対応した新料金算定方式の制度を構築



グローバル・エンゲージメント戦略でハイレベルな国際化を目指す

SDGsを共通言語として、国際機関等との連携強化による国際的なプレゼンスの向上
及びグローバル人材育成の推進。



第3期の振り返り

第3期は、大学経営にESD(持続可能な開発のための教育)、SDGsを統合的・発展的に組み込み、国際機関等との直接的な連携を強化するグローバル・エンゲージメント戦略を推進しました。

2019年11月、第40回ユネスコ総会で「ESD for 2030」の倫理的枠組みとして地球憲章が採択されたことを受け、翌12月に本学学長が地球憲章国際本部と国連平和大学を訪問。2020年6月に地球憲章国際本部、2021年8月に国連平和大学とそれぞれ包括連携協定(MoU)を締結しました。2020年1月には、国連貿易開発会議(UNCTAD)との間に、大学としては世界初となるMoUを締結。同MoUに基づき、アジア・アフリカの若手研究者を対象に「SDGs達成のための科学技術イノベーション(STI for SDGs)」の人材育成プログラムを開始しました。

また、第3期では、SDGsを共通言語に、「グローバル実践人」の育成に取り組みました。日本人学生の海外派遣に関する取り組み



国連平和大学との協定締結式典



ユネスコ世界会議特別セッションにおける岡山大学ユネスコチアの紹介



CLS学生、矢掛高校との交流



オンライン参加のCLS学生にビオトープ池の様子を伝える本学学生

第4期の取り組み

第4期には、「ビジョン3.0：ありたい未来を共に育み、共に創る研究大学」の下、グローバル・エンゲージメント戦略を推進し、サステナビリティとウェルビーイングを追究する大学として、地域から地球全体の課題解決に主体的に取り組み、共感的リーダーシップを有するグローバル人材育成を推進します。

地球憲章本部や国連平和大学など、地域・世界の多様なステークホルダーとの志を共有するエンゲージメントを深化させ、国際機関との直接的連携による「ESD for 2030」の推進、UNCTAD受け入れプログラムやCLSプログラムなどSDGsに関する教育研究の高度化、OYWなどSDGsに関連する世界的次世代リーダーネットワーク活動への継続的な参画、地球レベルの優先的課題に関する世界トップレベルの大学との国際共同研究等による成果を国際会議等の場において積極的に発信、などの国際的なインパクトのある成果を挙げていきます。

また、学生の海外派遣の拡大や、優秀な留学生の獲得と卒業・修了後のネットワーク化、海外の大学と連携した国際的な教育プログラムの提供により、異なる価値観に触れ、国際感覚を持った人材を養成します。具体的には、海外の協定校や外国政府機関、国際機関等との連携により、グローバルに活躍できる次世代リーダー育成に資するSDGs国際教育プログラムを開発します。UNCTAD-SDGs博士プログラム、ダブルディグリーやジョイントディグリー制度を含むDXを活用したハイブリッド型国際SDGsプログラムによる海外大学との連携など、大学院課程におけるSDGs国際教育プログラムを推進していきます。優秀な留学生の獲得に関しては、大学院予備教育特別コースの安定的運用を図り、本学大学院等へのスムーズな進学を促進するとともに、国際同窓会等の修了生のネットワークを活用した獲得に向け、ネットワークの構築や強化に取り組んでまいります。



UNCTADとの「途上国からの若手女性研究者のための共同研究・研修コース」研究成果発表会をオンライン開催

DX×新分野の発想でグリーンイノベーションセンター設立へ

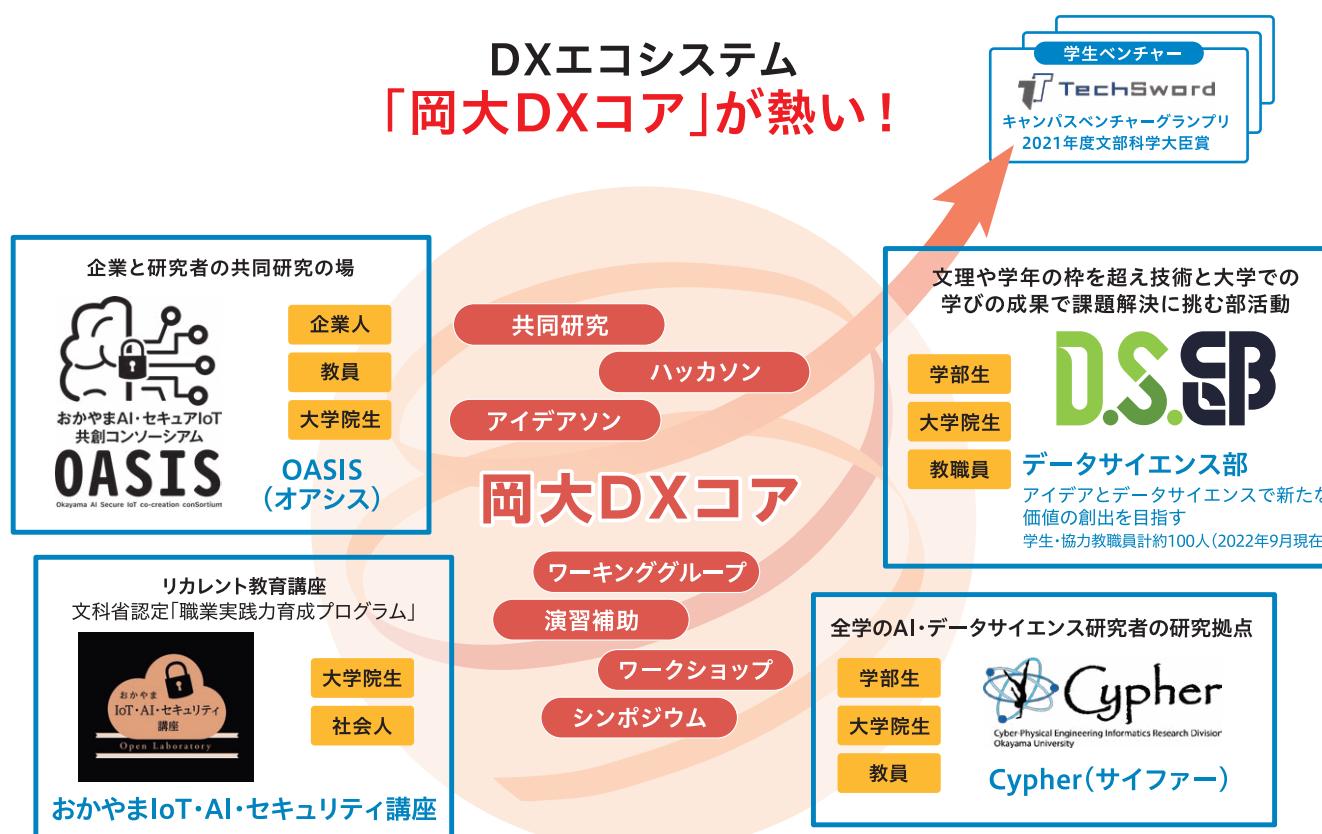
岡山地域のDXエコシステムの拠点として、岡大DXコアの姿が見えてきました。対象分野を林産業に拡大して脱炭素社会への貢献を目指します。



第3期の振り返り

DX(デジタルトランスフォーメーション)が叫ばれ、デジタル活用が社会変革を起こしつつあります。本学は、教育研究・人材育成・地域貢献の側面から着実にDXに取り組んできました。2019年度には、DXに敏感な地域企業からの要請によりリカレント教育プログラムとして「おかやまIoT・AI・セキュリティ講座」を開講し、2022年度からは文部科学省「職業実践力育成プログラム」として提供しています。2020年度には、異分野融合によるDX関連の研究力強化を目指し、全学のAI・データサイエンス研究者の研究拠点「サイバーフィジカル情報応用研究コア(Cypher)」を設置しました。また、これと同期して企業と研究者の共同研究の場として「おかやまAI・セキュアIoT共創コンソーシアム(OASIS)」も設置しています。さらに、2021年度の新工学部の改組では、DXの技術的な担い手を育成するために情報・電気・数理データサイエンス系を設置し、定員を新工学部最大の190人としました。

これらの組織では、意識的に相互に乗り入れて活動しています。例えば、リカレント講座の演習補助や共同研究に参画した大学院生



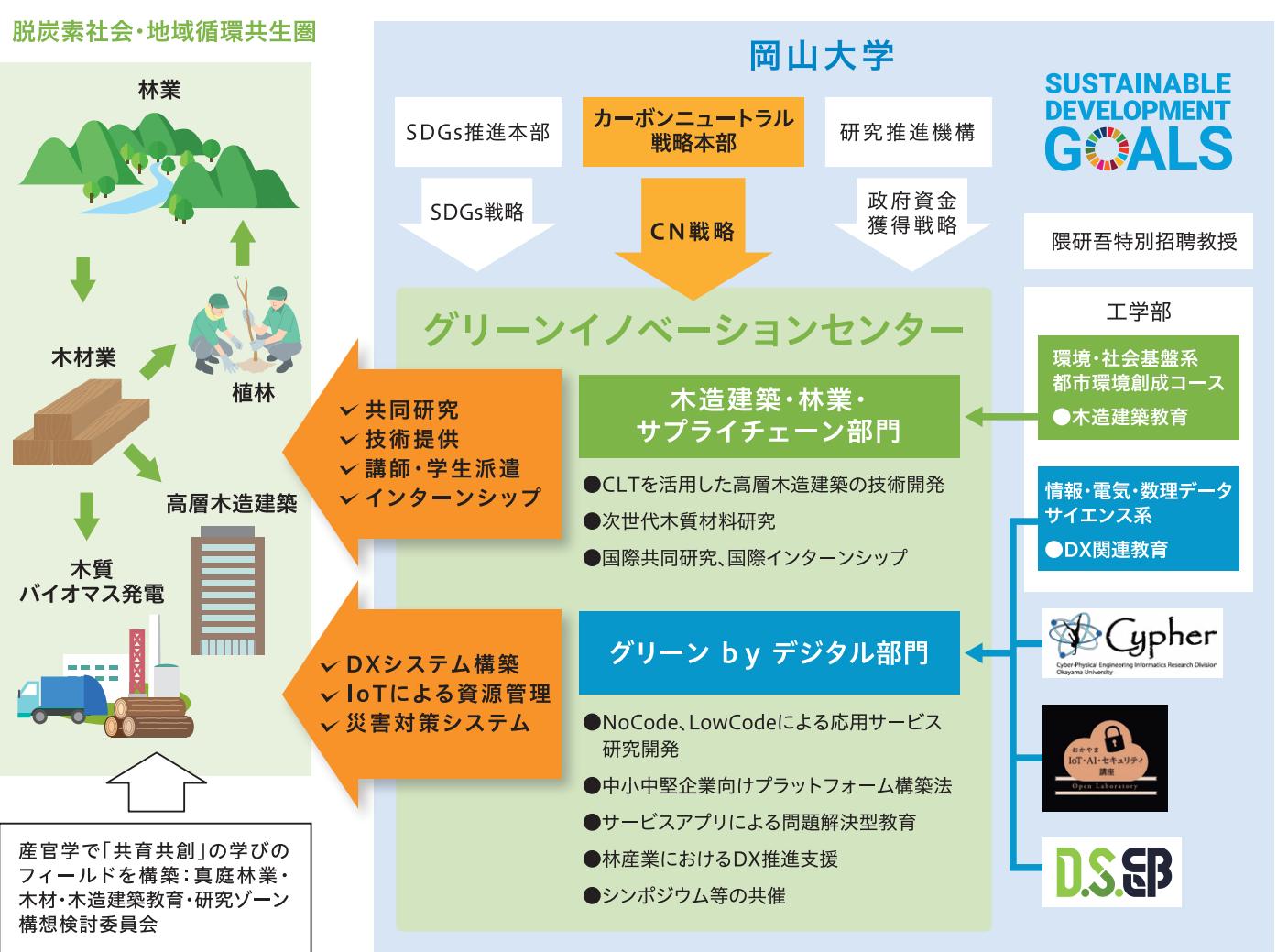
第4期の取り組み

脱炭素社会・地域循環共生圏の構築に貢献すべく2022年4月に「グリーンイノベーションセンター(GIC)」を設置しました。このセンターの特徴は、「木造建築・林業・サプライチェーン部門」と「グリーン by デジタル部門」の2部門から構成される点です。「木造建築・林業・サプライチェーン部門」では、高層木造建築の技術開発や次世代木質材料研究、スマート林業の技術開発、木材のサプライチェーン・マネジメントなどの研究を行います。木造建築の高層化は、CO₂の固定量を増やすだけでなく、製造過程でCO₂を多量に排出するコンクリートや鉄の利用量を削減できます。「グリーン by デジタル部門」では、「岡大DXコア」の活動基盤を背景に、林産業を含む地域企業の情報インフラ構築を支援・推進します。森林の計測や可視化、データに基づく森林成長のモデル化とシミュレーションなどデジタル

技術による林産業のサポートを目指しています。また、林産業では、中小中堅企業が占める割合が多いことから、NoCode・LowCode のサービスアプリで比較的安価にプラットフォームを構築することを目指します。なお、GICの活動は、複数の大学と共に林業・木材産業が盛んな真庭市とコンソーシアムを組み、県北地域の森林を実フィールドとして教育研究を進めて行きます。

本学のDXの取り組みは、木造建築に主軸を置いた新工学部の建築教育プログラムの新設、それに対する木造建築の世界的な第一人者である隈研吾特別招聘教授の支援、SDGs推進研究大学としての本学ビジョン等の背景から、林産業にまで踏み込みました。今後もDXと多彩な分野との掛け合わせに挑戦し、稀有な人材を育成し、地域の発展に貢献したいと考えています。

グリーンイノベーションセンター概略



日本屈指の『診療・教育・研究拠点』へ

岡山大学病院を、日本を代表する「医療・保健のエンジン」に成長させます。



第3期の振り返り

新型コロナウイルス感染症の拡大は、岡山大学病院にも大きな影響をもたらしましたが、職員一丸となって、献身的かつ積極的にこの状況に立ち向かいました。感染者の受け入れ、院内での感染対策、後遺症専門外来等、感染拡大防止と患者に寄り添う医療の提供に努めました。

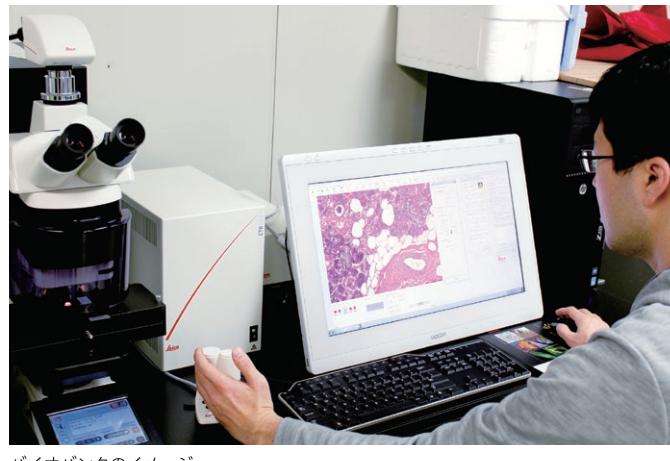
岡山大学病院がリードする臓器移植も、コロナ禍で2020年度には29例と大幅に減少しましたが、カンファレンス等による情報共有や多職種連携チームでの検討を重ね、全国的に脳死下臓器提供数の減少が続くなかでも、2021年度には62例という実績を上げました。その他遺伝子治療、再生医療及びロボット医療などの先進的かつ国際的競争力を有する医療も、安全に配慮し実績を重ね、今後一層の増加が見込まれます。

また、大学病院の使命である地域での中核的医療機関としての機能強化に取り組んできました。岡山県がん診療連携拠点病院として県内におけるがん診療の質向上に、がんゲノム医療中核拠点病院として連携病院等への情報提供や人材育成講習会の開催、岡山県肝疾患診療連携拠点病院として県内における診療水準の均一化を図るなど、地域医療充実のための連携体制構築に関し中心的な役割を担っています。

国際水準の臨床研究及び橋渡し研究を担う拠点としても、大規模かつ迅速な臨床研究・治験の実施体制を整備してきました。ARO*支援件数は順調に推移し、2021年度には266件に達しました。特に医師主導治験に対して積極的に支援を行い、拠点病院機能を充実させました。中央西日本臨床研究コンソーシアムを基盤として、企業出資型研究者主導臨床研究と医師主導治験については、順調に被験者登録が進んでいます。

病院経営のさらなる改善を図るため、経営の健全度を評価するための経営分析ツールを活用し、外部有識者を参画させることで、客観的な経営分析と速やかな評価ができる体制を構築し、診療の効率化、加算の向上による增收となりました。

*ARO(Academic Research Organization)
大学・大学病院の機能を使って医薬品や医療機器などの臨床研究・非臨床研究を支援する組織のこと。
岡山大学病院では新医療研究開発センターがARO機能を有する。



バイオバンクのイメージ



ダ・ヴィンチを用いた手術



第4期の取り組み

岡山大学病院では、世界の研究動向も踏まえ、最新の知見を活かし、質の高い医療を安全かつ安定的に提供することにより持続可能な地域医療体制の構築に寄与するとともに、医療分野を先導し、中核となって活躍できる医療人を養成することを目指しています。

そのために、中核的医療拠点として、高難度手術やゲノム医療などの高度医療を提供することに加え、治験受託件数を増やして健康寿命延伸に寄与する次世代医療や異分野融合イノベーションの創出に繋がる研究を推進しています。

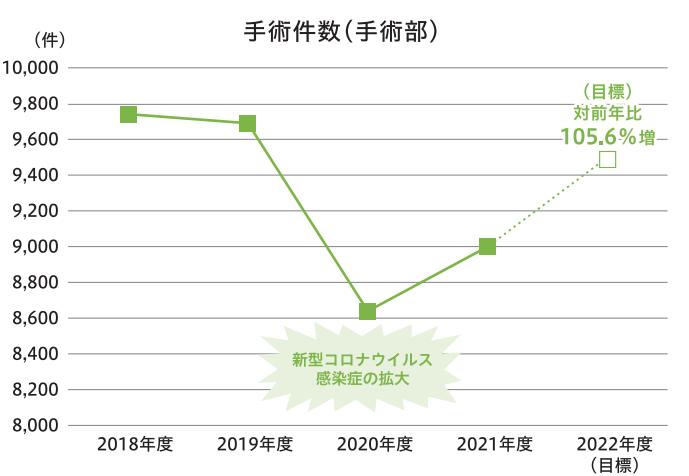
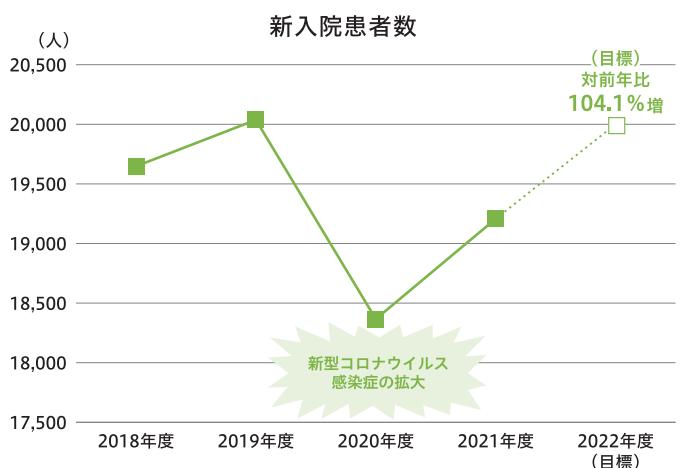
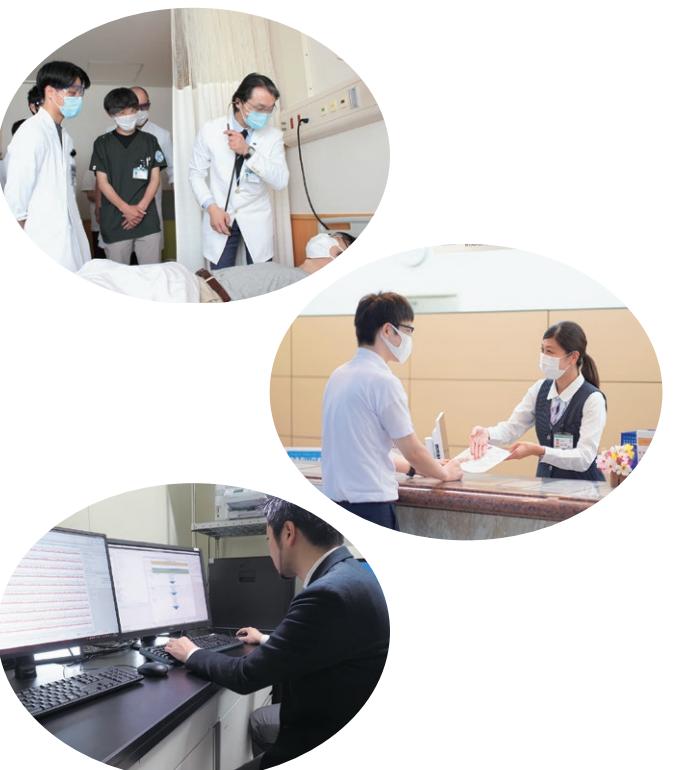
また、地域の医師偏在に対応した、持続可能な地域医療提供体制を構築するとともに、地域中核病院間連携を推進し、中国・四国地域に点在する中核病院間を結ぶホスピタル・ネットワークの規模を拡大していきます。地域医療における良質で安定的な医療提供体制構築には、地域全体で優れた医療人を育成することが基盤になるとともに、治験・臨床研究においても地域一体的な実施を通じて、医療における教育と研究の融合を促進することが重要です。今後も、これ

までに培った医療連携ネットワークの特色と強みを伸長することで、岡山県を含む広く中国・四国地域在住者の健康及び公共の福祉の向上に努めます。

DX化推進の面では、患者向け通院支援アプリ、医療情報共有アプリ及び紹介元の医療機関からオンライン予約できるシステムを2022年度から導入しました。今後も“デジタル対応力”で選ばれる病院でありたいと思います。

診療・教育・研究におけるすべての取り組みを新規導入・維持更新・進化発展させるには、病院の財政基盤の安定化が不可欠です。本院の優れた研究成果を社会実装し、さらに社会にアプローチすることで、今後は産学連携等研究収入及び寄附金収入といった、診療外収益の向上にも繋げていきたいと考えています。

「全ての患者さんのために」「医療・保健の発展のために」「社会のために」岡山大学病院は、日本屈指の『診療・教育・研究拠点』であるべく成長を続けてまいります。



「全ての患者さんのために」
「医療・保健の発展のために」
「社会のために」

安全・安心に生活できる未来型シティの創出へ ～デジタル田園都市国家構想～

岡山大学が参画 吉備中央町が「デジタル田園健康特区」に指定

2022年3月、国家戦略特区諮問会議において、岡山県吉備中央町が全国初となる革新的事業連携型の国家戦略特別区域「デジタル田園健康特区」として指定されました。この特区は岸田内閣が進めるデジタル田園都市国家構想を先導するもので、健康や医療分野に特化し、デジタル技術の活用により、人口減少や少子高齢化など、日本各地の地方部が抱える問題を、規制緩和により課題解決する全国に先駆けたモデル化を目指すものです。

本学の那須保友理事(研究担当)・副学長は、総括アーキテクトとして中枢で参画し、「母子健康情報のデジタル化」「救急医療における救急救命士の役割拡大」「医療や健康情報のPHR^{*}基盤への蓄積」を中心とした構想立案の中核を担ってきました。また、今回の特区指定を受け、より緊密かつ、組織的な連携・協力体制をとるため、2022年4月、本学は吉備中央町と広範囲な地方創生・人材育成並びにSDGsの達成に寄与することを目指す協定を締結しました。本協定締結を踏まえ、総合大学として、幅広い学問領域の「知」と「技」を集結した「オール岡大」体制により、デジタル田園健康特区事業を含めるデジタル田園都市国家構想を実現していきます。そのなかで、地域の課題解決の先駆的モデルを構築し、ローカルSDGsの達成を図ります。

* PHR(Personal Health Record)
患者さん本人が生涯にわたって保持する電子カルテ(生涯型電子カルテ)のこと。

関係者インタビュー



那須 保友
岡山大学理事(研究担当)・副学長 吉備中央町デジタル田園都市推進協議会総括アーキテクト

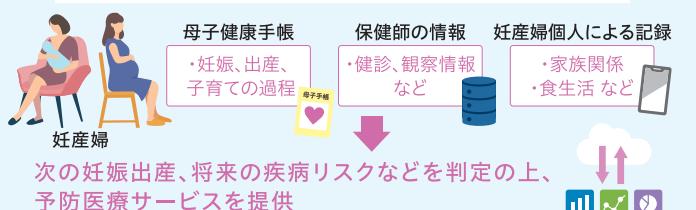
今回の指定は人口1万人程度、日本のどこにでもある中山間地域、多くの過疎地域の先進的モデルとして、「健康・医療」を突破口として課題解決にフォーカスした点が、高く評価されたと認識しています。最初の突破口として「健康・医療」を掲げましたが、今後は「教育・交通・防災」といったフィールドに活動領域は広がっていきます。そこで大切なのが「心豊かな暮らし(Well-being)と持続可能な環境・社会・経済(Sustainability)を両立して実現できるのか?」、これを多面的に検証するシステムです。そのためには、人文社会学・教育・自然科学・医学などの「専門知」が必要になり、それらが融合することで、新たな「総合知」が生み出されてくると考えています。

母子健康情報のデジタル化

戦後間もなく発行された妊娠・出産・育児における母子の健康状態を記録する母子健康手帳ですが、時代の変化とともに足りない部分が見えてきました。それは妊娠中の母親の生活に関する項目、具体的には「将来の病気の予防になる項目」「親子3代が繋がる仕組み」がない点です。これを踏まえ、岡山大学発ベンチャーの「そなえ株式会社」にて、紙媒体の使いやすさを残しながら、未病関連項目に対応した母子健康手帳のデジタル化を進めてきました。

その結果、完成したのがハイブリッド母子健康手帳「ウイラバ」です。「ウイラバ」は母子健康手帳のページをスマートフォンで撮影するだけで、情報をデジタル化することが可能で、助産師などの医療者によるオンライン相談や妊娠時の体調変化や子どもの食事内容をチャット形式で質問できる機能があります。また、妊娠期から産後1年間を通して、行政サービスや健康・子育て情報を得ることができます。吉備中央町では、2022年9月から「ウイラバ」を用いた母子支援を開始しています。

妊産婦健康診断情報を踏まえた予防医療サービス



出典:妊産婦健康診断情報を踏まえた予防医療サービスイメージ(内閣府)をもとに作成

医療健康情報の連携

現在、自治体ごとに地域医療の情報連携ネットワーク構築には取り組まれているものの、自治体を超えた標準化は進んでいないのが現状です。特区では、患者のPHRを第三者組織が預かり、患者・臨床研究、新たなアプリ開発のために利活用することを目指しています。また、同じく特区に指定された石川県加賀市が提案している「医療版情報銀行」をはじめ、長野県茅野市、吉備中央町で運用されている共有データベースとも相互連携を可能にしようという構想も上がっており、今後、特区を契機に医療データの相互運用を全国に拡大していくことが期待されています。

資金採択状況

- 「デジタル田園都市国家構想推進交付金デジタル実装タイプ(TYPE3)」:デジタル庁 吉備中央町及び関係機関で申請・採択
- 「デジタル田園健康特区先端的服务の開発・構築等に関する調査業務」:内閣府 岡山大学及び関係機関で申請・採択

救急医療における救急救命士の役割拡大

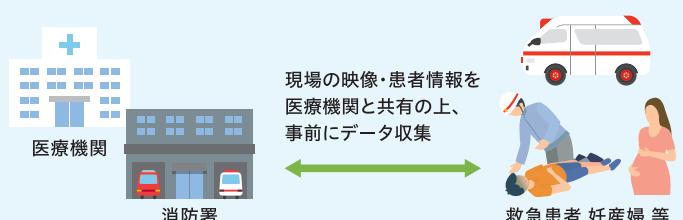
吉備中央町では、地域の医療機関や消防署と連携しながら、医師の指示の下で救急救命士が行う救命処置を拡大し、「傷病者情報の収集」「情報収集の伝送」「無侵襲行為(超音波検査など)」の実施を検討しています。今後は岡山大学病院と岡山市消防局で実証実験を行い、データの収集を進め、実現化を目指します。



救急医療における救急救命士の役割拡大

地域の医療機関や消防署との連携の下、救急救命士が医師の指示の下で実施できる行為(救急救命処置)を先行的に実証することを検討

提案自治体:吉備中央町
医療機関等:岡山大学病院(臨床研究中核病院)、岡山市消防局



出典:救急士の役割拡大イメージ(内閣府)をもとに作成

健康医療情報の自治体を超えたデータ連携

地域医療情報連携ネットワークA



※HL7FHIR: Health Level 7 Fast Healthcare Interoperability Resource.
医療情報交換のための実装しやすい新しい標準規格として海外で注目されているもの。

併せて、右記についても
 •PHRに係る患者本人に対する同意手続のあり方
 連携して検討。
 •患者へのID付与(地域ID、マイナンバー活用)のあり方 等
 出典:健康情報の連携イメージ(内閣府)をもとに作成

地域医療情報連携ネットワークB

地域医療情報連携ネットワークC



山本 雅則
吉備中央町長

本取り組みの推進には、より専門的な知識やノウハウ、実施体制が必要です。岡山大学様に、特に喫緊の課題である救急医療について、臨床研究中核病院の知見や実績をお借りしながら、デジタル技術の活用により、地域における健康・医療等の課題解決に向けた共同の取り組みを通じ、住民の皆さんのが安心・安全に暮らせるまちづくりを進め、本取り組みが他の中山間地域のモデルとして、大きな役割を果たすよう努力してまいります。



国吉康雄記念研究寄付講座企画・運営『And Recovering Them そして、それらを回復する』展での授業の様子
(2021 / 津島キャンパス創立五十周年記念館) 撮影:伊藤 駿

多様性とユニークが織りなす物語

国吉康雄記念研究寄付講座の活動はユニークだ。

国吉研究を学際的に発信し、ニューヨーク近代美術館の研究者をゲストに招き、世界で活躍する日本画家や絵画保存修復家の講演でアートの多様性を多面的に示したかと思えば、熊本被災地での文化復興プロジェクトに関わり、豊島事件やハンセン病患者強制隔離問題の継承に映像取材での発信を試み、地元企業や行政、瀬戸内国際芸術祭とコラボした授業を提供し、学生たちと県内外でのアートイベントや学際的な美術展覧会を仕掛ける。学内でも、附属中央図書館、文明動態学研究所、医歯薬学域形成再建外科学講座、共育共創コモンズなどとの連携プロジェクトを担う。

それは国吉康雄という労働移民として渡米したマイノリティーが、カリスマ美術教師として、全米のアーティストの権利運動の先頭に立ち、ベネチア・ビエンナーレのアメリカ代表画家となる「アメリカンドリーム」の体現者であること。そして、アメリカのデモクラシーとその矛盾が示す、様々な課題を象徴する存在だからだ。

国吉康雄記念研究寄付講座は、国吉の人生と表現が示す「Humanity」を活動の源泉とし、総合大学である岡山大学の知財と資源と協働し、研究と事業を拡張・発信している。

多様性の中で学ぶ

社会のイノベーションのために主体的に課題に取り組み、グローバル社会の持続的発展に貢献できる人材を育成します。

国際バカロレア(IB)生の受け入れ

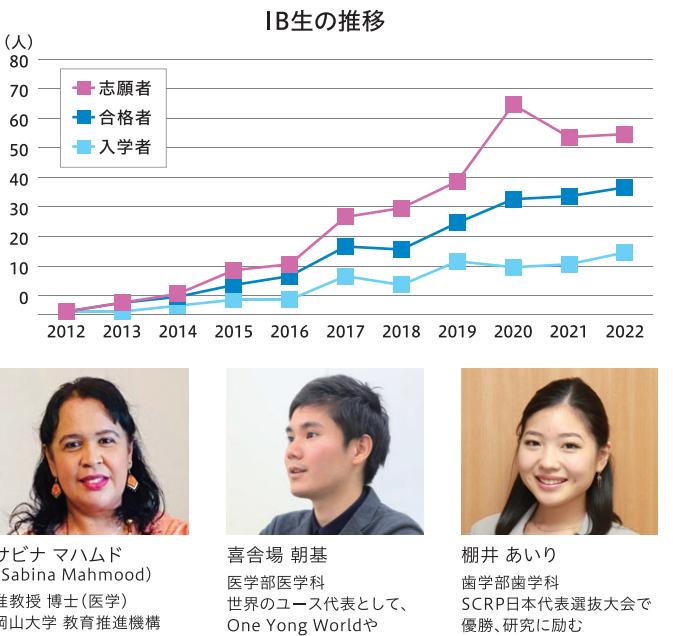
岡山大学では、2012年度から全国の国立大学に先駆けて国際バカロレア(IB)入試を実施しています。現在は、全学部・プログラムで受け入れを行っています。

IB教育の調査研究や広報活動を重ね、これまで、13都府県・海外19カ国から合計101人(2012-2022)のIB生が入学しました。

入学後も、専任教員が定期的に面談やアンケート調査を行い、IB生の満足度や不安、悩みなどを把握して、在学生とともに各人に応じたアドバイスやサポートを行い、IB生の学業やキャンパスライフを支援しています。在学生は世界を舞台に研究や課外活動で実績を残しており、卒業生も社会や大学院などで活躍しています。

これからも岡山大学は、積極的にIB生の受け入れとIB教育・研究を推進していきます。

<https://www.okayama-u.ac.jp/tp/prospective/ib.html>



グローバル・ディスカバリー・プログラム

グローバル・ディスカバリー・プログラムは、国内外の独自の入試により選抜された、世界各地から集まった海外生と日本国内の高校出身者が、英語を共通言語として一緒に学ぶ学士課程教育プログラムです。

学生は、英語で提供される必修科目など履修の後に、ディスカバリー専任教員の指導で卒業研究を行うディスカバリー専修トラック、または、学内の卒業研究受け入れ学部の教員の指導で卒業研究を行う学部・学科横断型マッチング・トラックのどちらかを選択します。現在の関心や将来の目標にマッチした知識を身につけ、グローバルな課題解決に向けて行動できる人材を育成しています。

これまでに累計で31の国と地域出身の学生292人が入学し、2021年9月及び2022年3月には、第1期卒業生も輩出しました。卒業生は、国内外の大学院や企業へと進み、グローバルな舞台で活躍しています。

卒業生の主な進路

（進学）岡山大学大学院、University of Bristol(イギリス)
（就職）アイリストヤマ、イオン銀行、山陽新聞社、星野リゾート、日本タタ・コンサルタンシー・サービス、日本赤十字社岡山県支部、ハワイアン航空、三菱HCキャピタル、ランスタッド、EY新日本有限責任監査法人、KC International School(台湾)、LINE、LITALICO、Unite and Grow



建築教育プログラム～木造・木質建築の岡山大学～

「工学部工学科環境・社会基盤系都市環境創成コース」では、木造・木質建築を強みとした建築教育プログラムを提供しています。

2021年度新設 「工学部環境・社会基盤系都市環境創成コース」

本コースでは、建築から土木まで、これからの都市づくりに欠かせない広範な知識・能力を兼ね備えた人材を育成しています。学生は、2年次から本コースを選択でき、3年次に「建築教育プログラム」と「土木教育プログラム」の両カリキュラムを学ぶことができます。「建築教育プログラム」では一級建築士受験資格が得られるため、本試験に合格後、大学院で2年間の実務経験を経ることで、修了後すぐに一級建築士の資格を取得することができます。

また、都市環境創成コースはJABEE認定(土木および土木関連分野)も受けており、本コースを卒業することで技術士資格取得における第一次試験免除となります。

<https://urban.okayama-u.ac.jp/curriculum.html>



グリーンイノベーションセンターと連動し
「共育共創」学びのフィールドを構築



社会のニーズを踏まえた「建築教育プログラム」

●建築学では、どんなことを学ぶのか？

建築は、人間が生きていく環境をつくる技術で、生活のあらゆる面に密接に関わっています。建築学では、幅広い知識と多角的な視点が必要となるため、建築と土木の区別なく、また、自然科学に加えて人文科学、社会科学、あるいは芸術を横断的に学びます。

●木造・木質建築で注目される建築教育プログラムとは？

岡山県は林業から木材・木質材料の製造、木質チップを利用したバイオマスまで、木に関わる産業がとても盛んな地域です。真庭市をフィールドとして、森林資源を活かすことの意義と課題を学ぶことで、木造・木質建築を通じた社会貢献ができる素養を身につけることができます。

また、都市環境創成コースには、第一線で活躍する建築家やエンジニアが複数在籍しており、社会のニーズを踏まえた実践的な技術を学ぶことができます。

●SDGsの一つ「住み続けられるまちづくり」のために

これからの街づくりには、気候変動に対応するレジリエンスや持続可能性が不可欠です。都市環境創成コースでは、建築を中心とし、それらの集合体としての都市、さらには都市全体を取り巻くインフラまでを含めてシームレスにデザインする能力を身につけることができます。

共育共創の大学院改革

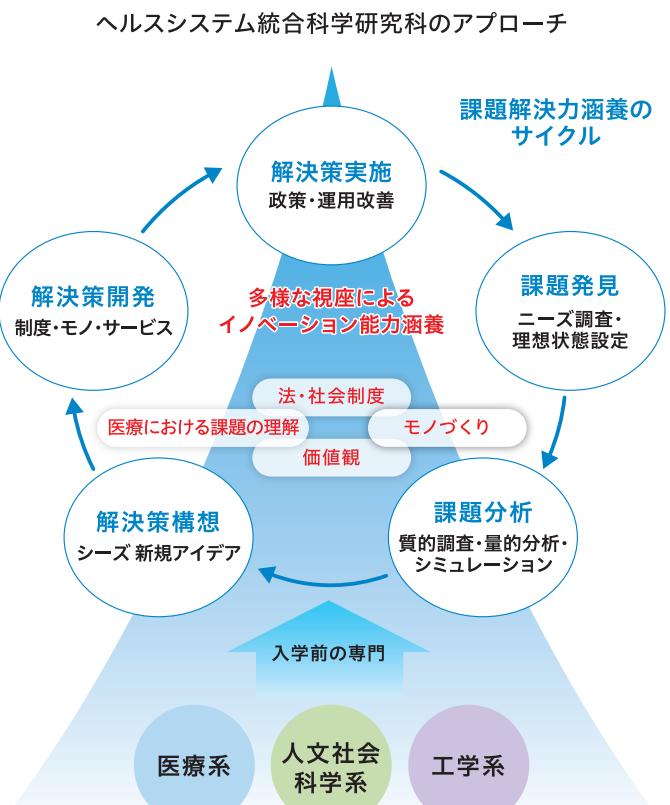
学修者本位の学位プログラム制の導入で、新たな価値創造と世界の革新に貢献する人材を育成。

第3期における大学院教育改革の取り組み

これまで本学の大学院では、総合大学院制を基盤に、それぞれの研究科の各専攻において、総合大学としての特色を生かし、社会で活躍する高度専門人材を数多く輩出してきました。しかし、地球規模の多様な課題を抱える時代の転換点を迎え、これまでの既存の教員組織や、専門の学問領域のみに依存した教育課程の編成では、時代の変化や社会のニーズに迅速かつ的確に応える人材養成は難しくなりました。

そこで本学では、2018年度に医工連携・文理横断のもと、「ヘルスシステム統合科学研究科」を新設しました。本研究科の対象は本学の強みである「ヘルスシステムの現場」にあり、研究方法である「統合科学」は研究科の特色といえます。大学院生は、医療系・人文社会科学系・工学系の専門性に軸足を置きながら、課題発見から課題分析、解決策の構想・開発・実施のサイクルを統合科学のアプローチで学びます。同研究科は設置4年目を迎え、国際共同研究や外部資金の獲得に成果を出しています。

次に全般的に社会や企業のニーズに柔軟に応える大学院とするために、地域や世界のステークホルダーと協働する「共育共創」のフレームワークを構築し、既存の研究科や専攻の再編統合を行い、学修者本位の「学位プログラム制」の導入を図る大学院教育改革への取り組みを始めました。



第4期における大学院教育改革の方向性

岡山大学大学院では「学位プログラム制」を導入し、これから社会の中で、リーダーシップとトランスファラブルな力を有する「主体的に変容し続ける先駆者」として、新たな価値創造と世界の革新に貢献する人材の養成を目指します。

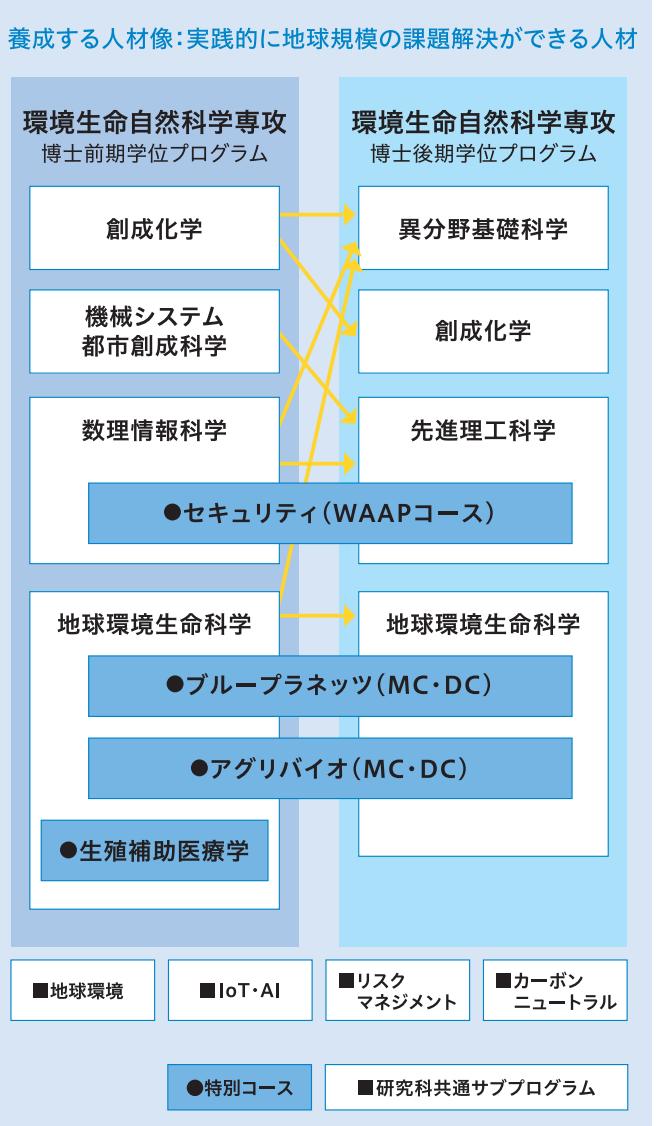
理系では、2023年度に自然科学研究科と環境生命科学研究科を再編統合し、環境生命自然科学専攻の1専攻のもと、博士前期課程及び後期課程にそれぞれ4つの学位プログラムを設定します。学位プログラム化により、教員は専攻内の他の学位プログラムでも指導が可能となり、学修者が幅広い科目群からオーダーメイドで学ぶことができます。さらに先鋭的な研究内容を集中的に学ぶ履修モデルとして、4つの特別コースを設置しています。加えて特に社会的ニーズが高い課題を取り上げたサブプログラムは、全ての大学院生が

履修できます。

医療系では、研究領域の枠組みを越えて教育組織と資源を柔軟に結集するため、2023年度に、医歯薬学総合研究科の博士課程を医歯薬学専攻の1専攻に大括り化します。博士の学位に求める能力の水準と専門性から、医学、歯学、薬学の領域ごとに学位プログラムを設置するとともに、特色ある授業科目の履修を可能とする選択プログラムを、医学・歯学の学位プログラムに設定します。

医歯薬学総合研究科の薬科学専攻では、データサイエンス科目やレギュラトリーサイエンス科目により専門性を強化し、またトータルヘルスプロモーションの観点から栄養・ヘルスケア関連科目を開講することで広い視野とトランスファラブルな力を身につけるカリキュラムに改革します。

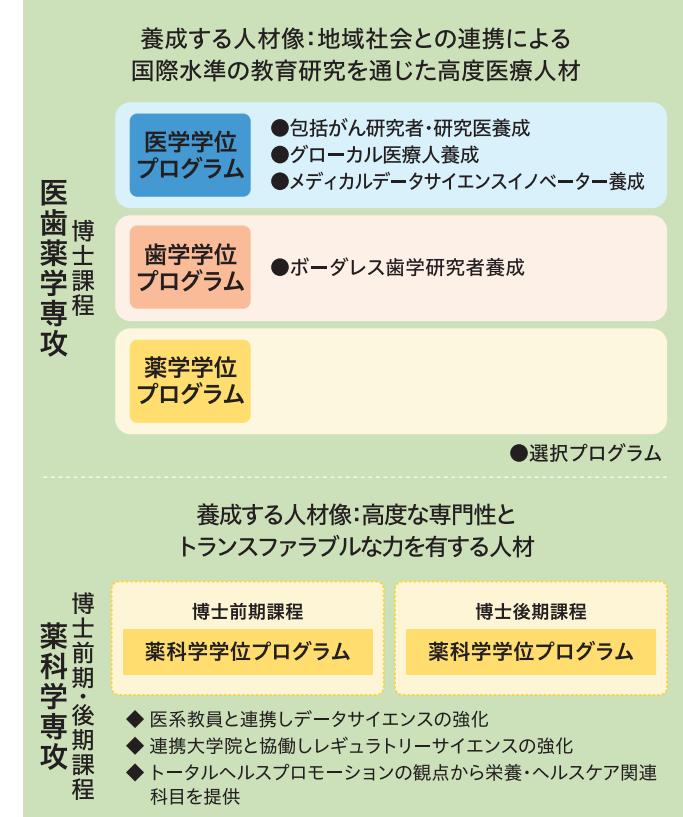
環境生命自然科学研究科の概要



大本育英会給付奨学金

公益財団法人大本育英会のご支援により、2021年度から、郷土岡山の発展に資するため、歴史と伝統を誇る本学の大学院に学ぶ学生に返還義務のない奨学金給付をいただいております。岡山大学大学院博士後期課程への進学を目指す志ある者を対象に、広く社会に貢献しうる有為な人材を育成することを目的としています。所得制限などの条件を満たした上で、学内選考を受け学長推薦を得る必要があります。年間約80人の学生が、年額120万円の奨学金の支給を受けています。

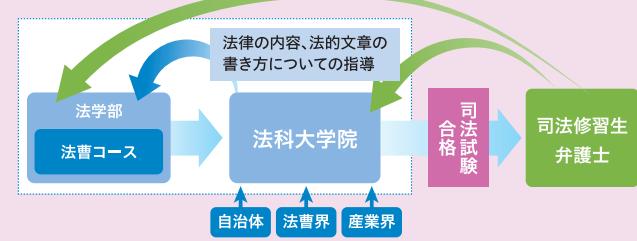
医歯薬学総合研究科の概要



修了後も母校とともに成長する

法科大学院・法学部法曹コースの取り組み

本学では、法学部と法科大学院との綿密な連携による一貫教育を行うため、2020年度法学部に法曹コースを新設しました。本コースでは、大学院生、修了生、若手OB弁護士が、コース生の指導を行なうシステムを構築しています。法科大学院の大学院生は、法学部生の指導を通して、将来の実務において身につけるべき能力を実践的に学ぶことができます。法学部生は、身近な目標となる先輩の指導を通じて、主体的に学びます。法科大学院では、地域の自治体・法曹界・産業界との密接な連携を生かして社会のニーズを把握し、大学院生が修了後も母校とともに成長する法曹人となることを支援しています。



岡山大学から世界へ ー未来への夢と強い絆ー

仲間との絆を深め、夢のある若者の未来のために、コロナ禍に負けない様々な取り組みを応援しています。

WE HAVE A DREAM×岡山大学

次世代リーダー・グローバルサミットOne Young World(OYW)は、2009年世界経済フォーラム(通称「ダボス会議」)において発足宣言され、2010年以降、毎年、世界196カ国から各国の次世代を代表する若いリーダーが一堂に会する世界最大級のサミットです。地球規模の課題に対し、世界的指導者の下、次世代リーダーが連携して問題を解決する世界的産官学連携の次世代リーダー育成プロジェクトであり、参加者にはOYWアンバサダーの称号が授けられます。本学からは2015年以降、毎回学生を派遣し、参加学生はOYWアンバサダーとして世界の次世代リーダーと長年にわたる人脈を構築しています。

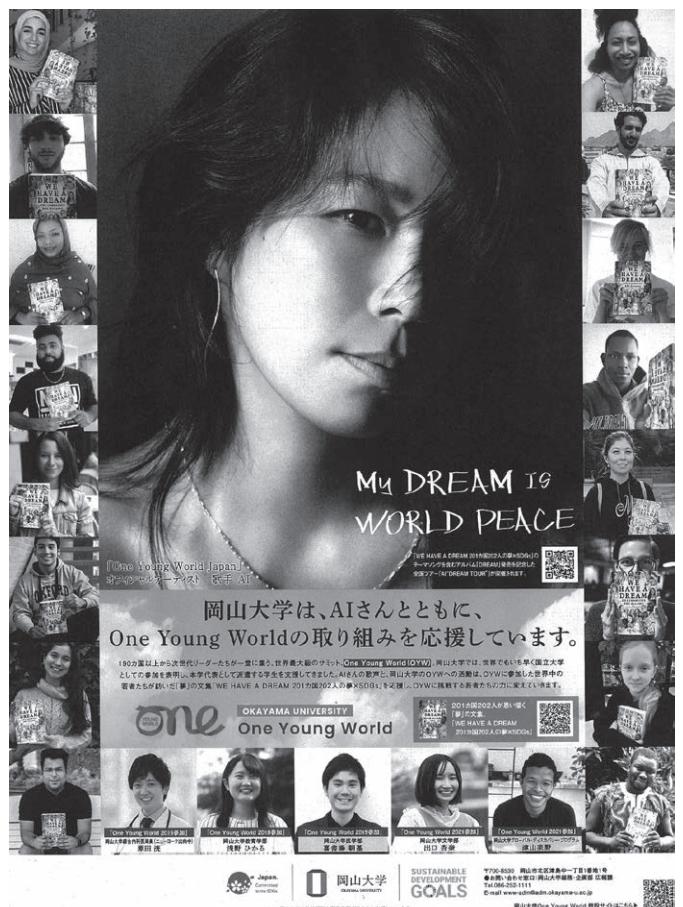
その関連するプロジェクトとして、2021年6月、「WE HAVE A DREAM×岡山大学-世界から僕らは何を学ぶのか-岡山大学から世界へ飛び立った4人の夢！」と題した企画展示をOYWアンバサダーらと共に催しました。これは、持続可能な開発や問題に取り組む各国の若者たちの行動と描く夢をまとめた書籍「WE HAVE A DREAM 201カ国202人の夢×SDGs」の世界同時出版に際して実現したものであり、本学学生4人の「夢」「望む未来社会像」「推薦図書」などをパネルで紹介しました。横井篤文上席副学長・ユネスコチエアホルダーも、渋沢栄一の夢七訓を取り上げ、若者が夢を持つことの大切さや、夢を持った若者が志ある仲間をつくり未来をつくるために行動することの重要性について、メッセージを寄せました。

2022年4月の入学式では、楳野博史学長から、「WE HAVE A DREAM」の中から夢と目標の違いについて紹介があり、「『未来のありたい姿』という夢を他者と共有し、その実現のために必要な目標を考え、勇気を持って積極的に行動を起こしてください」と新入生を激励しました。

<https://oneyoungworld.intl.okayama-u.ac.jp/>



入学式で書籍を持つ楳野学長



2022.3.28 読売新聞全国版掲載

<https://globalengagementoffice.okayama-u.ac.jp/news/1634/>

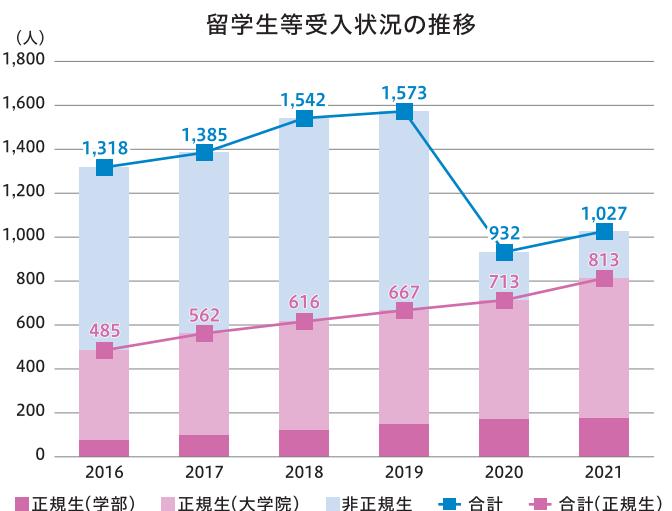


企画展示の様子

コロナ禍の留学生受入れ・派遣の状況

【留学生の受入れ】

本学では、海外事務所、オンラインセミナー等を通じた広報活動により、正規課程の留学生数はコロナ禍にも関わらず年々増加していますが、2021年度の新規渡日予定者441人のうち、入国制限のため渡日できたのは68人でした。渡日できていない留学生に向けた学長の応援メッセージの発信、オンライン及びハイブリッド授業、指導教員等によるフォローアップ等を行い、未渡日の留学生への支援を継続しました。さらに、海外協定校とオンライン共同セミナーやシンポジウムを実施し、オンライン上での学生交流を行いました。



【学生の海外派遣】

本学は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により学生の留学(海外派遣)を中止していましたが、新たに派遣の可否を業務継続戦略(BCS)に基づき判断する実施方針を定め、2021年8月以降再開しました。これにより大学院生の研究留学及び学部生の交換留学等、計23人が留学しました。



危機管理ガイダンス(対面)の様子

国際同窓会設立10周年

岡山大学国際同窓会は、2021年に設立10周年を迎えました。

同窓会は、母校と同窓生及び同窓生同士の交流と絆を深めるとともに、将来的に学生の交換留学や大学教職員の交流への実現を目指した活動を行っています。会員は岡山大学に在籍した留学生や外国籍を有する教職員等で構成され、2021年4月現在、28カ国に55支部(7通信拠点含む)を設置し、約1,100人の会員を有しています。

2021年12月にオンライン開催された第11回総会では、設立10周年を祝って、小長啓一岡山大学Alumni(全学同窓会)会長や岡益己国際同窓会初代顧問からご祝辞をいただきました。また、総会に先だって開催されたプレイベント情報交換会では、7支部約90人の同窓生と在学生が参加し、交流を深めました。

2021年からは運営スタッフに留学生を迎える、学生視点を取り入れた広報を行うなど、さらに強力なネットワークが築かれています。



岡山大学国際同窓会 第11回総会

<https://alumni.ouic.okayama-u.ac.jp/>



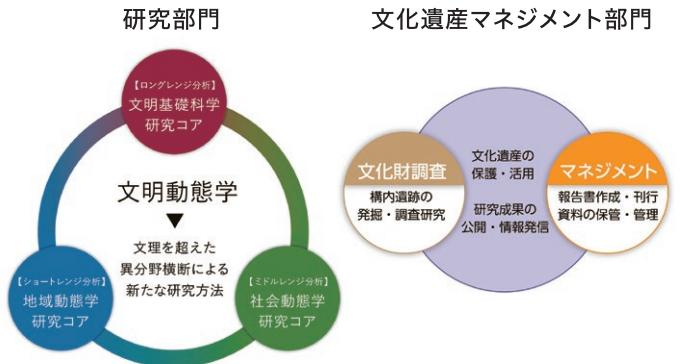
過去と未来、津島と世界をつなぐ異分野横断型研究

人文社会科学を中心に学際的研究体制を構築し、人類史を踏まえた新たな知の創出により、持続可能な未来に貢献する文明動態学。



文明動態学研究所の概要

現代社会が抱える様々な課題は、長い歴史の中でヒト、社会、技術、環境が相互に密接に関連しあって発生してきたものです。本研究所は人類史の実態を明らかにし、こうした課題の根本的な解決に繋がる長期的な展望を見出すことを目指し、人文社会科学と自然科学分野の連携による学際的研究を進めています。2022年度からは、本学の文化遺産、とくに埋蔵文化財の調査研究と社会への情報発信を行なう文化遺産マネジメント部門も設置されました。



進行中の研究プロジェクト

Beyond ARCHAEOlogy

欧州の科学技術・イノベーション政策の主軸「ホライズン2020プログラム」の下で「RISEプログラム」に採択された文理連携型国際共同研究プロジェクトです。イタリア・トリノ大学を代表とする欧州6研究機関・企業とともに、日本列島の古代国家形成期に焦点を当て、先端的な知識と技術の国際的・学際的交流を通じて、新たな歴史像と専門的技術の開発を目指します。本研究所兼務教員を含む理系研究者と連携して出土資料の分析を進めています。



文化財レスキュープロジェクト

「歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業」と連携し、2018年の西日本豪雨で被災した資料の保全活動に取り組んでいます。人々の生活とともにある未指定の文化財や地域の歴史遺産に関する地域歴史資料学、デジタル技術を利用した数理計算モデルの構築、理化学分析や保存科学など、新たな人文学の手法を駆使し、洪水・地震・疫病・気象などの災害と人々の生活を地域に即してとらえ直す、新たな地域史研究の創出を目指します。



瀬戸内プロジェクト

過去30年ほどの間に生じた産業集積パターンの変化により、瀬戸内地域に位置する中・低位都市は低迷・衰退を余儀なくされました。この地域における機能低集積化・分散化の加速メカニズムとその構図を諸側面から分析するほか、空間的・歴史的特徴を台湾、韓国、オーストラリア、フランス、ベトナムなどと比較し、潜在的コア・コンピタンスの顕在化とそれを基盤とする新たなインターローカルネットワーク構築の可能性を検証します。



瀬戸内の自然・歴史的環境と産業のかかわりから未来を考える
写真/才土 真司

その他の研究活動・情報発信

- マンスリー研究セミナー
研究所の専任・兼務・客員教員を中心に、多彩なテーマの研究成果をわかりやすく紹介する毎月1回のオンラインセミナー。
- オンライン・ジャーナル『文明動態学』
日英バイリンガルの学術誌を年1回刊行。
- RIDC共同研究
若手研究者や海外の研究者を加えた異分野横断型研究を年間10件程度採択。

国際学術研究拠点形成に取り組むRECTORプログラム

新たに宇宙物理学、医学領域で2拠点が始動。
強み分野における5つの研究拠点を中心に国際的ビジュアリティの向上を目指す。

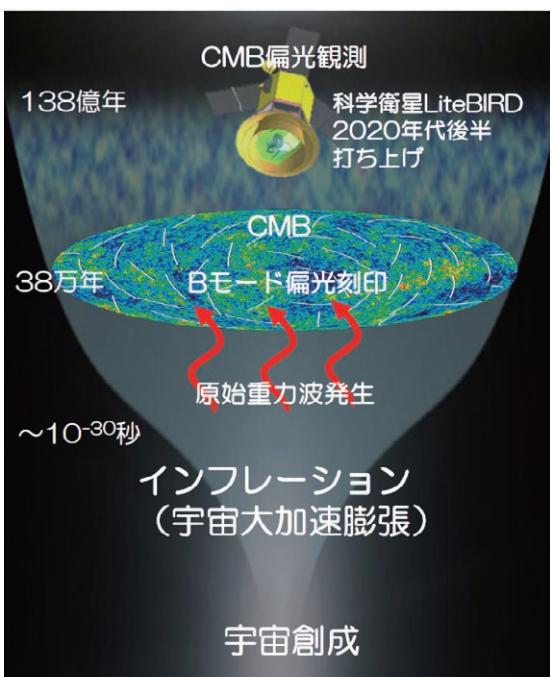


トランスクリプトーム 国際研究拠点形成プロジェクト

岡山大学病院ゲノム医療総合推進センター
遠西 大輔 研究教授
ブリティッシュコロンビア大学
David W. Scott 准教授



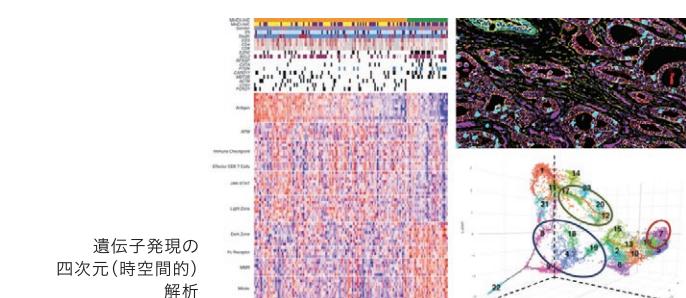
本プロジェクトでは、ゲノム医療総合推進センターで利用可能な、最新鋭の空間トランスクリプトーム解析機器を用い、この分野での世界第一人者であるカナダのブリティッシュコロンビア大学のDavid W. Scott准教授を海外PIとして迎え、トランスクリプトーム解析を用いたトランスレーショナルリサーチを行います。具体的には、悪性腫瘍における新規遺伝子異常を、トランスクリプトーム解析と数理モデルによって同定し、その機能解析や創薬基盤を構築します。また、その結果を元に、将来的なトランスクリプトーム・パネルの臨床実装と、そこから得られる新規免疫療法のシーズを開発していく予定です。さらに、トランスクリプトームを含むマルチオミックス解析手法を、がんだけではなく非腫瘍性疾患にも拡大することで、当該技術を学内研究へ幅広く提供し、国際競争力の高い研究者を実施します。



科学衛星LiteBIRDで宇宙マイクロ波背景放射(CMB)を精密測定。
宇宙ビッグバン以前の謎に迫る。



マルチオミックス空間解析装置など



ゲノム情報やトランスクリプトーム情報を統合した
四次元マルチオミックス解析でがんゲノム医療の臨床応用を目指す

IR/IEによる「育てる投資」の成果とIMaCによる収入構造改革

確かなエビデンスに基づく学生・教職員を「育てる投資」と、IMaCで進めている収入構造改革で大学の価値向上。

経営分析に基づく戦略的収入構造改革

本学では、エビデンスに基づいた本学の強みへの重点投資や、大學生や教職員の研究力を向上させる投資として、「育てる投資」をこれまで実施してきました。

特に、若手研究者や女性研究者に対して、優れた研究業績を有する研究者の活躍を積極的に促進する「研究教授・准教授認定制度」や、女性研究者のライフステージに応じた活躍を支援する環境づくりを進めてきたほか、大学発ベンチャーや学生ベンチャーの支援などにも積極的に取り組んできました。

こうした様々な取り組みにより、定量的な数値として競争的外部資金の獲得や質の高い論文数の増加、女性研究者の研究力向上につながったほか、本学学生が2020年度および2021年度に2年連続でキャンパスベンチャーグランプリの大賞を受賞するなど、その成果が表れつつあります。

また、本学は内閣府「国立大学イノベーション創出環境強化事業」

【育てる投資の成果】

- ①RECTORプログラム
強み分野への重点投資、国際トップクラスの教授と共同研究実施
- ②若手研究者支援
研究教授・研究准教授認定制度、テニアトラックJr制度、若手研究者育成支援パッケージ、フェローシップ事業
- ③女性研究者支援
D&Iの推進
- ④大学発スタートアップ・ベンチャー支援
大学発ベンチャー企業支援事業、アントレプレナーシップ醸成事業、学生ベンチャー支援

イノベーション創出 × 収入構造改革

- 重点分野、新分野、社会課題解決へリソース集中
- 研究成果の社会実装に伴う外部（民間）資金確保
- 既存リソースを収益に転換

人材・知・資金の好循環によるイノベーションエコシステム

起爆剤

国立大学経営改革促進事業

国立大学イノベーション創出環境強化事業

IMaC (Innovation Management Core)

自律分散のアジャイル型組織

- ★プロジェクトベースで、教員・事務職員・URA等が集い、「組織」対「組織」の共創活動を実施
- 全学組織横断的でアジャイルな連携による学術・研究力強化と産学連携・共創加速
- 大型産学共創研究↑、間接経費↑、ライセンス料↑、産学マネジメント経費↑ ⇒ 経営に貢献

<https://www.orsd.okayama-u.ac.jp/imac/>



小惑星リュウグウの起源と進化 総合解析による太陽系物質科学

探査機はやぶさ2帰還試料の総合解析を世界に先駆けて実施し、46億年以上にわたる太陽系形態物質進化の新しい描像を描く。

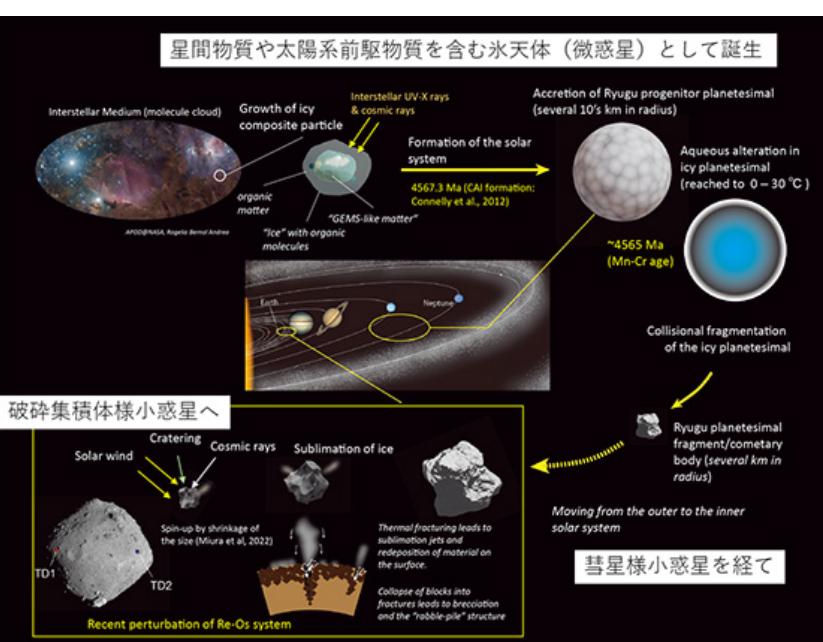


総合物質科学が切り拓く生命と物質の起源・進化・ダイナミクス

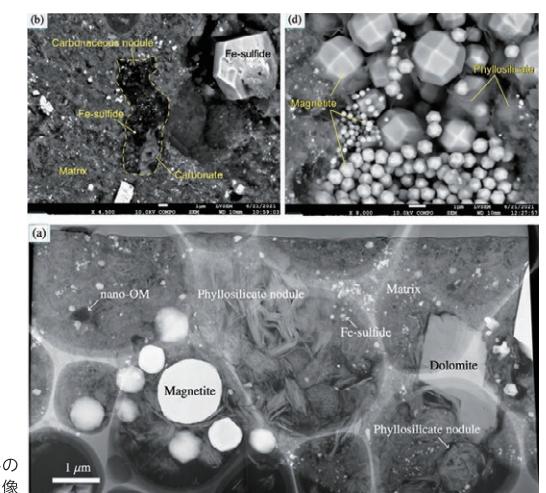
惑星物質研究所は、JAXA/宇宙科学研究所との連携協定に基づく、地球外物質サンプルリターンにおける物質科学研究を担当する高次キュレーション施設です。そのミッションの一つとして、探査機「はやぶさ2」によって帰還した小惑星リュウグウ試料の総合解析を2021年6月より開始しました。惑星物質研究所では、長年に渡り世界的にも類を見ない地球惑星物質総合解析システムを計画的に構築・発展させてきました。その研究能力を最大限発揮し、地球における汚染が最も少ない「リターンサンプル」であるリュウグウ試料の総合解析に取り組みました。総合解析の結果、リュウグウ粒子の化学組成及び同位体組成は、小惑星リュウグウが太陽系最初期に存在した始原的物質の特徴を保持しており、太陽系形成直後に太陽系外縁部で形成された氷天体を起源に持つことが明らかとなりました。さらに氷天体の破片が彗星核として地球近傍に移動し、その後氷を失ったことで小惑星が形成されるというモデルを提案しています。またリュウグウ

試料は、水素、窒素、炭素を豊富に含んでいました。さらに生命の起源に繋がるタンパク質構成アミノ酸を含む多様な有機物が見つかっています。地球における汚染が最も少ない地球外物質からアミノ酸が検出されたことで、太陽系における生命の起源の探求に繋がる重要な発見と言えます。この成果は、2022年6月に論文(Nakamura et al., DOI:10.2183/pjab.98.015)として公表され、関連研究者のみならず、非常に大きな社会的関心を得ることとなりました。結果として、次世代の研究者の育成など地球外物質科学の将来にも良い影響を与えることができました。今後も地球外物質科学の探求をさらに深めると同時に、分野にとらわれない広範な視座を持つことで本学の先進的な研究活動の担い手として発展していきたいと考えます。

https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id971.html



総合解析で明らかとなった小惑星リュウグウの起源・進化・ダイナミクス



リュウグウ試料の電子顕微鏡像

社会変革に向けた産官学共創によるイノベーションの創出

地域・世界の多様なステークホルダーとのエンゲージメントを深化・拡大し、
産官学によるローカルSDGsの実現に取り組んでいます。

志を共有するステークホルダーとの エンゲージメント強化

本学はイノベーションマネジメントコア(IMaC)を中心に、企業・研究機関・自治体など多様なステークホルダーと「組織」対「組織」の連携に取り組み、エンゲージメントの深化と産学共創の強化を図っています。

2021年は、株式会社アン・ドゥー、岡山県商工会連合会、国連平和大学、日本貿易振興機構(JETRO)、岡山県商工会議所連合会、備前市などと包括連携・協力協定を締結し、その目的に向けた活動を推進しています。



協定を締結した(株)林原とのミーティング

新たな発想により社会課題を解決する 大学発ベンチャー企業の育成

本学は、今までにない新しい発想でイノベーションを創出し、社会課題解決に取り組む大学発ベンチャー企業の育成に取り組んでいます。

その一環として、本学では、2021年度に本学の技術シーズなどを活用し、学生・教職員が起業した企業への「岡山大学発ベンチャー企業」称号付与制度を創設しました。称号付与企業に対しては、知的財産権優遇や本学施設貸与優遇などの支援を行います。2021年度には6社を認定しました。

また、本学では、2021年度にイノベーションマネジメントコアベンチャー支援フィールドを創設。同フィールドが窓口となり、学生・教職員を対象とし、起業に関する支援を行っています。

2021年度には、同フィールドが中心となり、岡山市や関係企業と連携し、起業に関するオンライン映画上映会やワークショップなどのイベントを実施し、アントレプレナーシップの機運を盛り上げました。



2022.3.17 日本経済新聞全国版掲載



大学発ベンチャー認定証授与式



革新的な流水発電技術を活かし、 治水DXに挑む

2018年豪雨災害で岡山県にも大きな被害をもたらした水害。学術研究院環境生命科学学域の比江島慎二教授と、同教授が創設した株式会社ハイドロヴィーナスは、水害対策(治水)に取り組んでいます。

治水においても、ビッグデータやAIの活用が重要となります。電線や電波が届きにくい場所も多く、データ取得が難しいという課題がありました。

比江島慎二教授と同社は、海の潮流や河川、風などの流れによって振り子を振動させ、発電させる技術「ハイドロヴィーナス」を活用した、安価で小型かつ電池不要で計測と無線通信が可能な流水発電モジュールを開発しました。現在、このモジュールを多数設置してデータを集め、AIで解析することでリスク予測や水門等の管理を行う「治水DX」に挑んでいます。2022年10月からは、公益財団法人の助成を受けて、岡山県、愛媛県、香川県での実証試験を開始しており、社会実装に向けた期待が高まっています。



河川や用水路に設置する小型の装置を手にする比江島教授(右)ら 山陽新聞社提供



座主川での実験の模様

捨てられていた「オリーブ葉」を有効活用した 新素材の開発

学術研究院環境生命科学学域の神崎浩教授と仁戸田照彦教授は、日本オリーブ株式会社・岡山県工業技術センターとともに設立した「岡山オリーブ成分微生物変換高機能化研究コンソーシアム」における共同研究で、オリーブ葉エキスの微生物変換により新規の抗酸化成分「Bオリボール(B-Olivol)」が生成されることを見だし、そのBオリボール高含有オリーブ葉エキス生産手法をオリーブ花由来黒酵母を使って確立しました。Bオリボールは既存の抗酸化剤、ビタミンCやビタミンEより強力な抗酸化活性を示すこと、Bオリボール高含有オリーブ葉エキスはシワ防止・美白・抗老化などの効果を示すことが確認されており、2021年10月からは、上記成分を含む化粧液「オリーブマノン エスペラントサ エマルション」が日本オリーブから発売されています。

本研究は、従来、利用方法がなく、捨てられていたオリーブの葉の有効活用を可能としたものであり、日本中に眠る様々な未利用の天然(植物)素材の活用に繋がることが期待できます。



化粧液「オリーブマノン
エスペラントサ エマルション」
オリーブの葉を採取

微生物変換オリーブ葉エキスの効果

抗酸化作用

+ 生体内の抗酸化物質を増加させる作用

- ・ビタミンC、ビタミンEよりも優れた抗酸化活性
- ・グルタチオン(内因性抗酸化物質)を増やすことで、抗酸化防御機構のバランスを整える

ハリUP 弾力UP

シミ、くすみ改善

ヒアルロン酸減少を防ぎ 自ら潤う肌に

抗炎症効果で ターンオーバー正常化

美白有効成分コウジ酸の 半分の量で1.3倍の効果

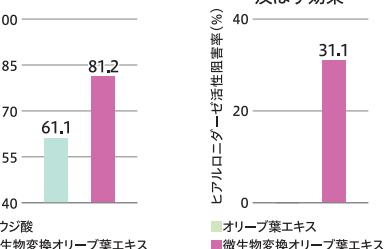
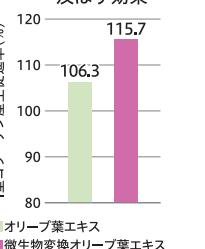
4週間でしわ改善

酸化ストレスが原因で起こるシミ、シワ、ハリ・弾力の低下、肌荒れを予防・改善

真皮コラーゲンに 及ぼす効果

美白効果

ヒアルロン酸分解酵素に 及ぼす効果



研究開発と先進医療のトップランナー・岡山大学病院

岡山大学病院は日本屈指の臨床研究拠点として社会に貢献しています。
また、発展が期待されるゲノム医療でも力を発揮しています。



中国・四国地域唯一の「橋渡し研究支援機関」認定

岡山大学は、2014年に基礎研究における研究成果を新しい治療薬・治療技術の開発など、実用化に結びつけるための橋渡し研究を推進する体制整備を目的とした「橋渡し研究支援機関」として採択されました。そして現在では、支援を望む研究者からの本学への応募シーズ数は、中国・四国地域アカデミアを中心として年間約120件にのぼり、学外からの応募シーズ数は、全体の半数以上を占めています。医療機器等の製造販売承認・認証申請も5件を数えています。



先端的研究開発を支える 臨床研究中核病院としての岡山大学病院

岡山大学病院は、全国に14ある臨床研究中核病院の1つとして、中国・四国地域の医療系大学で唯一認定を受けています。2021年度には医療法で求められる特定臨床研究として、医師主導治験3件、特定臨床研究18件を新規に開始し、さらに先進医療Bとして将来の保険診療化を目指した2件の臨床研究を実施しています。臨床研究の実施においては、様々な法令や基準を遵守して実施する必要があることから、新医療研究開発センターの一部門として新たに「臨床試験監理室」を設置しました。これにより臨床研究の適正な実施と不適合の是正を行い、これまで以上に質の高い臨床研究を実施しています。岡山大学病院は、岡山市内の公的基幹6病院からなる「岡山医療連携推進協議会」の事務局として、企業治験の依頼者（製薬企業等）に対して治験の対象となる患者数や専門医の数を示すなど、岡山地区としての受託治験数の増加にも力を入れています。



臨床研究中核病院に認定されている岡山大学病院

このように拠点として成果をあげる中、2021年12月に新設された文部科学大臣の認定制度である「橋渡し研究支援機関」として、岡山大学が中国・四国地域で唯一認定されました。

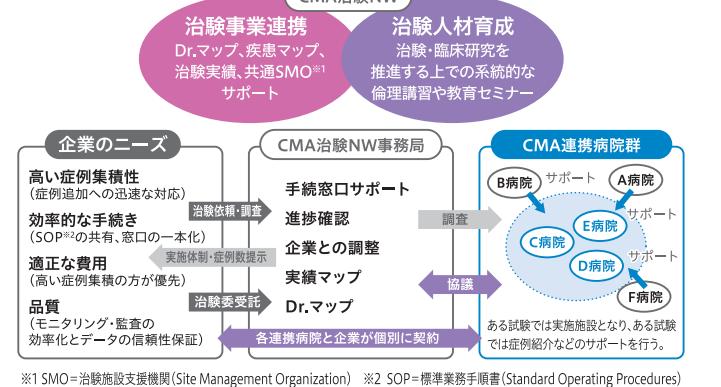
岡山大学は、主として中国・四国地域アカデミアの研究シーズの積極的支援や産学連携の強化を通じて革新的な医薬品・医療機器等の創出に、引き続き貢献してまいります。

CMA-Okayama治験・臨床研究ネットワーク

CMA治験NWが目指す姿
6病院が一体となった
バーチャル・メガホスピタルの治験NW
（“あたかも1医療機関”のように機能）
※手続き、Feasibility調査、進捗管理の一体化



CMA治験NWの流れ



がんゲノム医療の推進

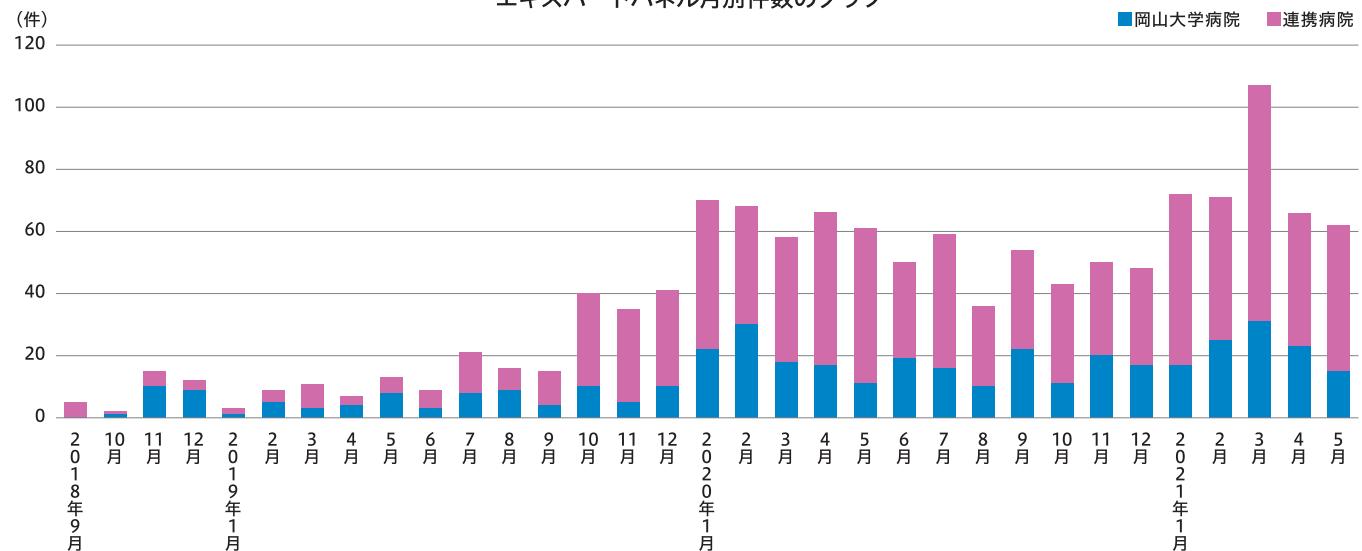
岡山大学病院は、中国・四国地域で唯一のがんゲノム医療中核拠点病院として、本邦のがんゲノム医療の推進に大きな役割を果たしています。がんのドライバー遺伝子変異を同定し、それに対する治療を提供するがんゲノム医療では、がん専門医だけでなく、遺伝医学や病理学、分子遺伝学の専門家や、薬剤師、看護師など極めて多くの職種の関与が必要であり、総合力が試される医療です。岡山大学病院では、ゲノム医療総合推進センターと臨床遺伝子診療科が中心となり、ゲノムデータから治療選択を決定するエキスパートパネルや、生殖系列バリエントが同定された際の遺伝子医療を、関連部門と密に連携して実施しています。その結果、がん遺伝子パネル

検査のエキスパートパネルの実施件数は、786件（2021年報告書実績）、遺伝性腫瘍に係る遺伝カウンセリングの実施件数は452件と、いずれも全国トップレベルの実績を誇ります。さらに、新たながん遺伝子パネル検査の開発にも乗り出し、現在先進医療として臨床実装に向け準備を進めています。このように岡山大学病院は、地域のがん医療だけでなく、本邦のがんゲノム医療をリードする立場として、大きな期待と注目を集めています。

<https://www.okayama-u.ac.jp/user/hospital/index328.html>



エキスパートパネル月別件数のグラフ



ゲノム研究の最先端

岡山大学病院ゲノム医療総合推進センターには「超高解像度生体試料解析医療機器」として、デジタル空間プロファイラー『GeoMx』やシングルセル（1細胞）マルチオミックス解析プラットフォーム『Tapestri』が導入されており、細胞間の極微小環境の多様性解析や、1細胞レベルで遺伝子／タンパク質発現解析が可能になるなど、世界最先端レベルでの解析体制が整っています。これに加え、岡山大学病院バイオバンクに収集・保管されている診療科横断的な生体試料を用いることで、様々な疾患の原因究明と新規治療法の開発に大きく貢献しています。中でも「肺の生活習慣病」と呼ばれている慢性閉塞性肺疾患（COPD）の病態解明と新規治療開発を目的とした研究は、2021年度に続き2022年度もAMED「ゲノム医療実現バイオバンク利活用プログラム（次世代医療基盤を支えるゲノム・オミクス解析）」に採択され、国内外から注目を集めています。



ゲノム医療総合推進センターの機器写真

<https://cgm.hospital.okayama-u.ac.jp/>



患者さん、地域・社会からの期待に応えて

患者さんや地域・社会からの期待に応えられるように、職員が一丸となって全力で取り組んでいます。

スムーズな診療のためのDX化

岡山大学病院では、患者向けの通院支援アプリ「HOPE LifeMark-コンシェルジュ」と医療情報共有アプリ「NOBORI」、医療機関からオンライン予約ができるシステム「カルナコネクト/C@RNA CONNECT」を導入し、2022年度から運用を始めました。

「コンシェルジュ」は、主に①自動チェックイン②診察状況お知らせ③らくらく会計(クレジットカード決済)が利用でき、課題となっていた待合の混雑解消や、会計の待ち時間短縮につながります。

通院支援アプリ
「コンシェルジュ」



※画像はイメージです。

<https://www.okayama-u.ac.jp/user/hospital/index416.html>



医療情報共有アプリ
「NOBORI」



※画像はイメージです。

<https://www.okayama-u.ac.jp/user/hospital/index417.html>



「ドクターカー」運用開始

2021年8月から大型救急搬送車「ドクターカー」を配備しました。ドクターカーには、医師や看護師、臨床工学技士の医療チームが乗車し、県内外からの広域搬送やECMOなどの高度医療機器を用いた重症患者の搬送に使用します。また、災害発生時には、「DMATカー」として被災地への派遣も行います。



救急車よりも広い車内で、ECMOなど高度な医療機器が必要な患者さんの搬送も可能

2021年度は試験運用として県内外の医療機関からの患者搬送を3回行ったほか、院内職員を対象とした患者搬送シミュレーションを実施。また、岡山市消防局と連携した患者搬送を目指して、消防局の救急車と当院のドクターカーが落ち合って傷病者を引き継ぐ「ドッキング」訓練も実施しました。

ドクターカー運用にあたり、救急医療体制の維持・充実のため、一般企業から活動の一部資金をご支援いただいている。今後もドクターカーの有用性をPRするとともに、救急医療の発展に貢献できるよう、努めてまいります。



岡山市消防局とのドッキング訓練の様子。実際に公道を走行してシミュレーションを実施



人と技術を育て

医療に貢献するイノベーションを生み出す“場”

多様な人と研究を交流させ、新たなイノベーション創出を目指す医療系オープンイノベーション・プログラム“BIZEN”(Business Innovation Zone for Entrepreneurship)を2021年12月より本格稼働させています。

エキスパートがコーディネートする「BIZENプログラム」では、参加いただいた企業研究者の皆様に岡山大学病院での臨床現場におけるニーズ探索や、大学が保有する様々なシーズや研究開発基盤を自社の開発に活用していただけます。「BIZENデバイス・デザイン」という実践的なニーズ探索・判断から実現へのフローをベースに効率的な事業化のプロセスを学び、実行できるプログラムです。人材教育や商品開発・事業展開に繋がる実務支援を行っています。

「BIZENラボ」は、鹿田キャンパス医学部正門に隣接する鹿田会館内に実験室3部屋、オフィススペース6部屋、会議室及び交流スペースを整備し、研究活動等の場として活用いただいている。ラボ・オープンから半年の6月で、全部屋が埋まりました。さらに拡張させていく計画を進めています。

BIZENプログラム

人と技術を育て医療に貢献する イノベーションを生み出す“場”です

コア人材育成

共同研究

事業展開

会員契約(人材育成～最後までのコーディネート)



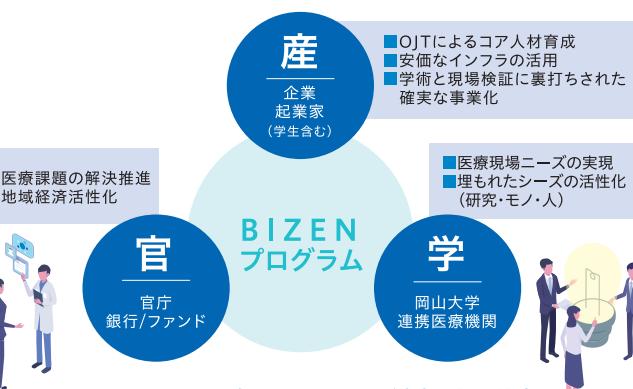
コンサルティング

BIZEN施設



BIZENコンセプト

産学官が各々のメリットを持ち
それ故に継続的に医療イノベーションを創出し続けます



また、プログラムやラボ使用だけでなく、オープンにイノベーションを創出できる環境づくりとして、セミナー、交流会、発信会も行い、フレキシブルに学内外、異業種を繋ぐ取り組みをしています。

中国・四国地域唯一の「臨床研究中核病院」、「がんゲノム医療中核拠点病院」、「橋渡し研究支援機関」である岡山大学病院にて、「産」と「学」が同じ目標で学び、将来の様々な社会課題を解決できる人材を育て、革新的な製品の開発や新しい事業展開を実現します。岡山大学病院の持つ機能を広く社会へ還元し、人づくり、未来のまちづくりに向かって、医療の中心的役割にて責任を持って取り組んでまいります。

<http://shin-iryo.hospital.okayama-u.ac.jp/bizen/>



コラム | 国吉康雄記念研究寄付講座とは

3



ハイブリッド授業の様子(2022)

対面授業(鹿田キャンパスジュンコ・フクタケホール)とオンライン授業(津島キャンパス生、在宅生)撮影:才士 真司

総合大学的イノベーションが生まれる場所

国吉康雄記念研究寄付講座が有する資源とシステムを、受講生もまた存分に活用する。

例えば、講座スタッフと受講生有志が仕掛ける、「アナログゲームシステムで学ぶナラティブデザイン能力育成プロジェクト」は、福武教育文化振興財団の助成事業となったことでスタートアップし、岡山市のイノベーションチャレンジ事業として開発が進んだことで今年、三菱みらい育成財団「21世紀型教養教育プログラム」に採択された。

地域の多様な文化資源とコラボし、受講生たちの好奇心と探究心を培う様々なプログラムは、企業メセナ協議会認定事業に4年連続で選出され、岡山市文化奨励賞と岡山芸術文化賞準グランプリを受賞。被災地で地域住民と協働した展覧会企画は、熊本県芸術文化祭奨励賞を得た。

そして、コロナ禍。

いち早く授業のオンライン化に取り組み、この実績が、学内知財のDX・リッチコンテンツ化を進めるメディアスタジオ「5D Lab.」の設計に生かされる。

岡山大学は今、国吉康雄記念研究寄付講座の育む人材、ノウハウとコラボし、岡山大学に蓄積された瀬戸内最大級の知財資源の映像化を計画している。岡山を、瀬戸内を、世界に発信し、地域が活用しやすい公共財とするために。

IV.ガバナンス
V.財務情報

岡山大学のガバナンス体制

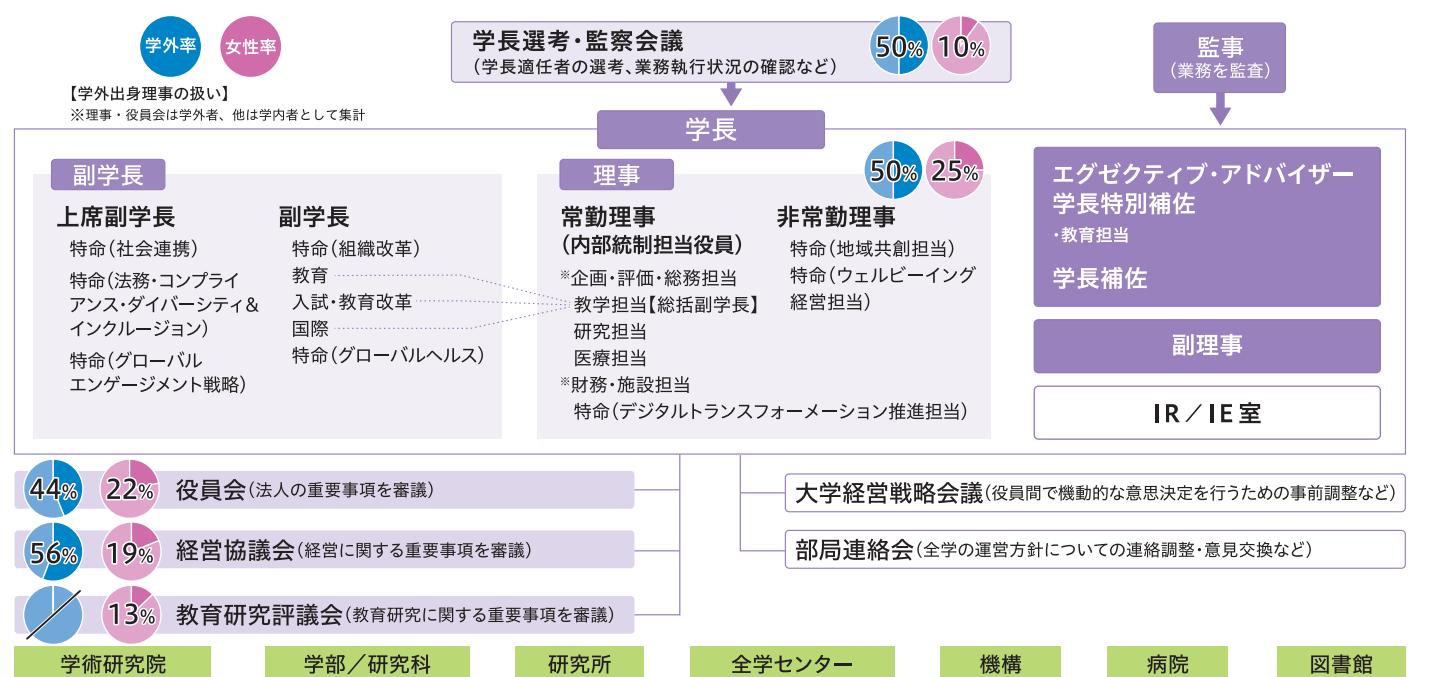
IR/IEによる統合的情報を大学運営に反映させる「目標管理による推進体制」に深化させ、運営から経営への転換を進めています。

運営から経営へ —多様な視点を取り組む共創型ガバナンス—

国立大学法人においては、高い公共性が求められ、各種の財政支援等が行われていることから、強固なガバナンス体制を築くとともに、そのことを多様な関係者に対して説明責任を果たすことが求められています（「国立大学法人ガバナンス・コード」より）。

本学においては、学長のリーダーシップの下、産業界や地域社会をはじめとする多様な関係者の意見を取り入れつつ、戦略的な大学経営が行えるよう、外部人材を理事やエグゼクティブ・アドバイザー、学長特別補佐に任命するなど多様な視点から学長が意思決定をすることができる体制を構築しています。

また、国立大学法人法で定められる法定会議の設置に加え、役員間で機動的な意思決定を行うための大学経営戦略会議の設置や、教育研究評議会開催時には、全学の運営方針についての連絡調整、各学部等における多種多様な業務の執行等の意見交換を行うことを目的とする部局連絡会を開催するなど、共創型ガバナンス（協治）も推進しています。



大学経営に資する“攻めのERM”で イノベーションを加速する

岡山大学では、COVID-19対策で国などに注目された研究BCPの取り組みを発展させ、全国の大学の先駆けとしてERM（Enterprise Risk Management）を大学経営改革の柱と位置づけ、2020年秋から導入をはじめました。国際標準規格ISO31000やCOSO-ERMフレームワークに準拠し、リスクを「目的に対する不確かさの影響」、ERMを価値創造やイノベーション創出を加速する仕組みと捉えて、リスクマネジメントプロセスを戦略立案のエンジンに組み込んでいます。

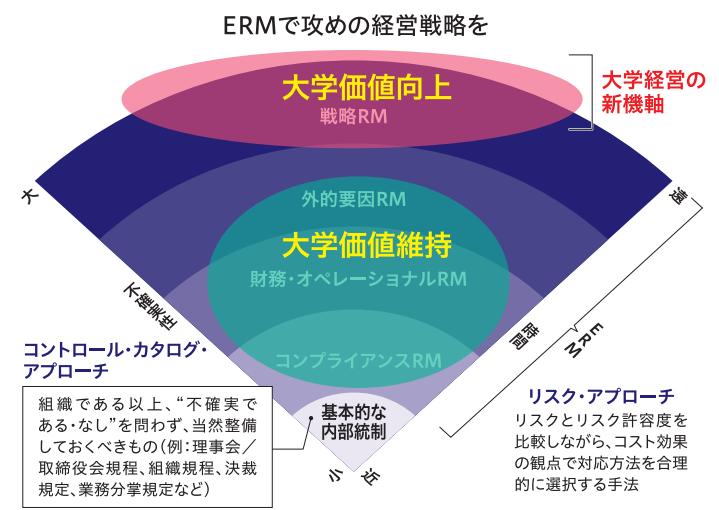
本学が考えるリスクは、基本的な内部統制をはじめとして、コンプライアンスリスク、財務リスク、イベントリスク、オペレーションナルリスクをマネジメントする「大学価値の維持」の活動だけでなく、外部資金の獲得などの戦略リスクを取って、「大学の価値向上」実現に繋げる活動も合わせて取り組んでいます。

一方、現在、社会では、データ偽装など様々な不祥事が発生しています。これらをよく見ていくと、しっかりとリスクマネジメントプロセスの実践に取り組んでいる組織が問題を起こしています。どの組織も経営者の暴走やインテグリティ（高潔さ、正直さ）の欠如など組織文化の問題が原因であることが明らかになってきました。

本学では、これをガバナンスの問題と捉え、まず、組織文化の現状を把握するため、IRM（国際リスクマネジメント協会）が定めた「リスク文化侧面モデル」を用いて検証を行いました。その結果、8つあるリスク文化侧面のうち、「パッドニュースへの対応（リスク情報がいち早く組織内に伝達される）」、「リスク・リソース（実務者に適切な権限を持たせている）」が本学の強みで、それ以外は課題と明らかになりました。これらの課題を解決するため、ERMを一層推進していきます。



ERMに関する役員ワークショップの様子



みんなが学びやすく、働きやすいキャンパスを目指して

ウェルビーイングなキャンパスの実現に向けて、様々な取り組みを行っています。



ウェルビーイングの実現に向けて

ウェルビーイングとは身体的・精神的・社会的に良好な状態にあることを意味する言葉です。本学におけるウェルビーイングの現状を調査したデータとしては、2019年2月に教職員及び大学院生を対象に実施されたD&Iアンケートがあります。このアンケートの中で、主観的幸福度の指標であるキャントリルの階梯の質問を行っており、本学では、教員の幸福度が他の職種より高いことがわかりました。また、幸福度の高い群ではワークエンゲージメント*が高い傾向を示していました。

皆でウェルビーイングを実現するということはとても困難な課題です。しかしそのために、現状と問題点をきちんと把握し、一つ一つ解決へ向けて取り組んでいくことが重要と考えられます。皆が幸せに活力や熱意をもって仕事に携われる大学になることを目標に掲げ、様々な取り組みを行っています。

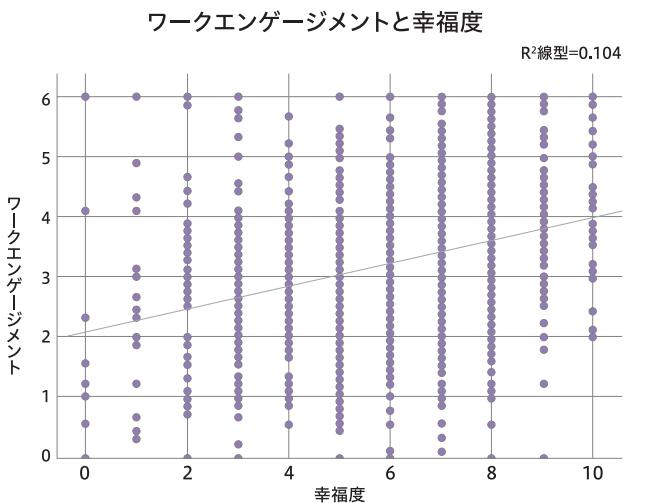
* ワークエンゲージメントとは、「仕事から活力を得ていきいきとしている」「仕事に誇りとやりがいを感じている」「仕事に熱心に取り組んでいる」の3つが揃った、仕事に対してポジティブな状態。

教職員のメンタルヘルス

2016年度より実施しているストレスチェックによると、本学のメンタルヘルス状況は、全体としてみると全国平均よりも良好です。しかし、事業場や部署によってメンタルヘルス状況のばらつきは大きく、健康リスク*が120を越えている要注意の部署が約1割存在しています。そこで、従前のメンタルヘルス研修体制を大幅に見直し、2021年度より、セルフケア研修と管理職研修を年間にそれぞれ8コマずつ実施することとしました。また、2022年度より復職プログラムも大幅に改定し、産業医と人事・労務担当が協働して取り組む仕組みに変更しました。

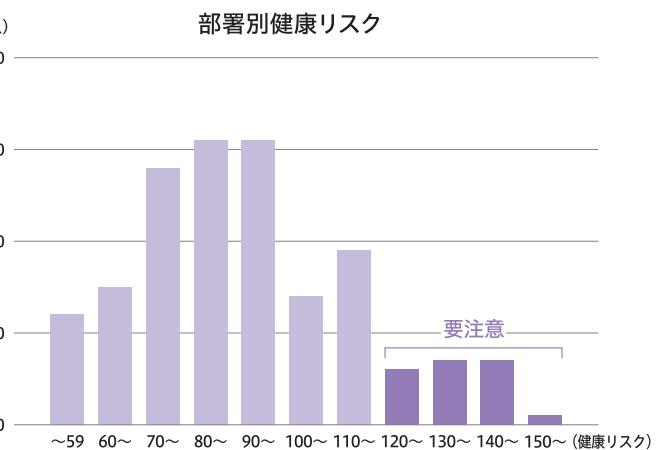
事業場単位で見ると、ある部署では、コロナ禍における職員の負担が大きく、長時間労働などの健康リスクが高い状況が伺えます。しかしながら、働く環境の改善に取り組もうという職員自身の意識の高まりとともに、必要な人員の増員や環境の整備が徐々に進んできており、改善の兆しが見えてきます。

一方で、健康リスクに注意を要する部署に対しては、ストレスチェックの結果から解析したその部署の評価と改善点などを各部署にフィードバックし、職場環境の改善に利用しています。



このように、本学ではストレスチェックを有効に利用しながら、教職員のメンタルヘルス対策を行っています。

* 健康リスクとは、健康を害するリスクを数値化したもので、全国平均を100として点数が低いほど良好です（例えば、10点高いと病気による休業者率が10%増えます）。120を越えると要注意とされています。



学生を多様に支援する学生相談室の取り組み

学生相談室は学生及び保護者、教職員からの様々な相談にカウンセラーが対応しています。相談内容は修学、進路、対人関係、性格、各種トラブル、恋愛相談まで幅広く、相談件数は年間約2,500件でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり2020年度以降は3,000件を越しています。コロナ前からメール相談、電話相談を実施し、コロナ状況下で直ちにZoom相談も始め、学生が状態に合わせて相談方法を選択できるようになっています。また、学生向けに様々な体験、交流セミナーを開催している他、学生と教職員に配信している「学生相談室だより」では、コロナ状況下でストレス対処やオンライン授業対策を特集し、対面授業が増えるにつれて「対面授業対策」を特集することで、状況に合わせた支援や情報発信を行っています。

<https://www.ipc.okayama-u.ac.jp/shien/soudan/dayori/>



学生相談室だより 2022年臨時号（通巻178号）

今年度は対面授業が増えていますが、皆さんの中には楽しく授業に出席している人もいれば、「慣れないと対面授業に苦戦している人もいるかもしれません」といった参考にしてください！

岡大生に聞いた「対面授業の大変なこと」「対面授業のコツや工夫について」をまとめました！

学生相談室だよりの特集記事を読む

学生相談室だよりの特集記事を読む

対面授業はオンライン授業と比べ、何が大変ですか？

- 移動時間がかかるし、通学が大変！雨の日は特に。
- 授業そのものよりも、服装を決める、身だしなみを整えた日の準備が大変。
- 朝の早起きが辛い。授業中に寝落ちしたら大変！
- 時間と場所が絞られる。
- 好きな時間に授業を受けたり、n倍速視聴したり、一時停止してちょっと考えたり、何度も内容を確認したり、チャットで友達と質問したりといった、オンラインの時のテクニックが慣れない。
- 先生の説明を聞き逃したり、質問できるタイミングを逃してしまうなどの内容がわからなくなることがある。
- 食事やトイレが自由にできないから、教室が暑かったり、椅子にずっと座っていると体が凝るなどの環境面や身体面。
- 食堂がとても混むこと。
- 人間関係を良好に保ちたくて、ついいつ頃張ってしまう。
- たくさん人がいる空間で一日授業を聞いて帰るだけで、けっこう疲れてしまう。
- 友達がいないから、教室で寂しい気持ちになる。

対面授業に行きたくないなーと思った時、どうしますか？

- 家から出れば学校まで行くのも苦ではないので、予め授業以外の予定も入れて、確実に家を出るようにする。
- 授業料の金額や、大学に行かせてももらっていることを考えて、遠地で行く。
- 朝に教室に行く、「〇時から〇時まで授業を受けら」とかの事実だけを考えて、「んどいなあ」とか「めんどくさいな」といった嫌な感情はあまり思いつかないようにする。
- 助けしてくれる「筋トレ」をすれば、身体の内側から筋手に入れる気が湧いてくる。
- ハーフリット等的なオンラインで受ける。
- どうしても体が動かなくて実習などでなければ、1回だけ休んでゆっくり休憩する。ただし1回だけ。
- 朝の授業は、ギリギリまで寝て（充電して）行く。行こうかどうしようか迷う時間を自分に与えない。
- 「授業で友達に会える、お昼も友達と食べる」と考えると、対面授業に行きたくなる！

部局で活躍するグッドジョブセンター職員

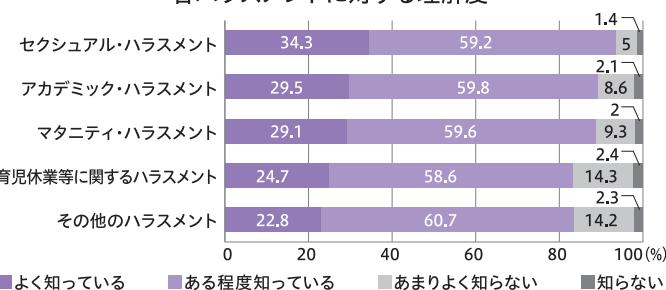
障がい者が活躍できる職場の実現を目指して2009年に設置されたグッドジョブセンターでは、職員一人ひとりが安心できる職場環境を整備し、持てる力を最大限発揮できるよう努めています。センターで十分な業務経験を積み、安定して業務ができるようになった職員は、附属図書館や鹿田キャンパスなどに職場を移し活躍しています。また、トイレ清掃では、職員たちが工夫して手順の標準化を行い、誰でも、どのトイレでも、共通して実施可能な手順により技術の向上、時間短縮を実現するなど、工夫と自立で本学の環境美化・整備に貢献しています。



ハラスメントのないキャンパスを目指して

岡山大学では、働きやすく、学びやすい、ハラスメントのない環境づくりを目指しています。教職員にはハラスメント防止に関する講演会や研修会を開催し、学生の皆さんにも関連の講義を行っています。2020年度に行った全教職員対象のハラスメントに関するアンケート調査によれば、ハラスメントに対する理解も深まっているようです。ハラスメント防止対策室には4人の専任相談員が、さらに学内の各教育組織や職場には46人のハラスメント相談員が配置され、学生を含む大学構成員が、いつでも、気兼ねなく安心して、ハラスメントに関する相談ができる体制を整えています。

各ハラスメントに対する理解度



財務マネジメントとキャンパスマネジメントの強化

地域社会との共育共創による大学経営を支える財務マネジメントとサステナブル・キャンパスの実現に取り組んでいます。



産官学共創による自律的な大学経営に向けた財政構造の転換

岡山大学の主な役割は、教育・研究・診療・地域貢献であり、その成果を広く社会に還元し、社会の発展に寄与していくことです。これらの役割を果たすための主な収入源は、国からの運営費交付金や施設整備費補助金等、学生からの学生納付金収入等、患者さんからの附属病院収入、法人等からの競争的な公的研究費である科学研究費助成事業等、国や地方公共団体、民間企業等からの受託研究等による産学連携収入、本学を支援してくださる皆様からの寄附金収入となります。

これらの貴重な財源や人的資源、物的資源を有効に活用し、教育・研究・診療活動を通して現代社会・地域社会が抱える課題の解決に取り組む「SDGs大学経営」を財務マネジメントにより支えてきました。

この統合報告書において岡山大学の様々な活動と成果を発信していますが、それらの活動のコストと成果との関係をより分かり易くするため「見える化」を進めています。具体的には、財務諸表において学系別セグメント情報の開示や、企業会計基準を意識した損益計算書の試作等のほか、実績・成果といった財務・非財務にわたって主な情報の体系化に取り組んでいます。

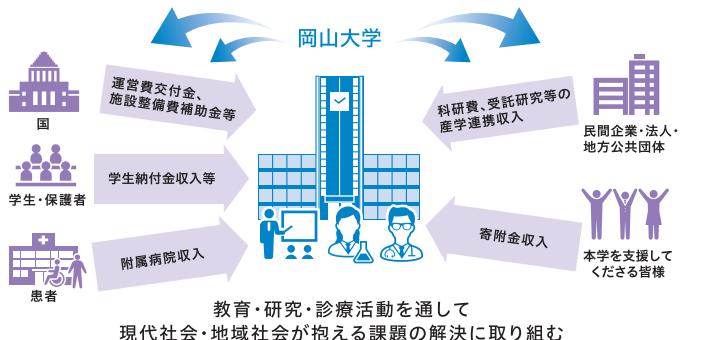
また、岡山大学では、さらなる財政の健全化と安定した財政基盤の確立に向けて、地域循環共生圏の実現に向けた新たな産官学共創の事業モデルを展開し、民間活力と外部資金を用いた財源の多様化

を図り、自立的な大学経営に向けた財務マネジメントのさらなる強化に取り組んでいます。

そのため、リスク・コスト意識に裏打ちされた経営資源の獲得方策の開拓と分析に基づく最適な資源配分が重要です。「見える化」により費用対効果を明らかにし、より収益性の高い事業モデルに効率的に先行投資するため財務情報を整理し、大学経営に直結させる体制の構築を進めています。

岡山大学ビジョンに基づき、地域社会の持続的な発展のため、学内外のステークホルダーとの思いの共有と協働を推進する好循環を実現してまいります。

成果を広く社会に還元し、社会の発展に寄与



SDGs大学経営を支える主な施策(2021年度)

| 戦略／取組区分 | インプット(百万円) 配分額 | 主な活動実績／成果事例（アウトプット／アウトカム） |
|--|-------------------|--|
| 戦略:教育改革 | 576 | 474 |
| スーパーローバル大学の創成(PRIMEプログラム)等 | 339 | 267 高度実践人認定者数 2017:127人→2020:544人→2021:651人 |
| 教育の実質化断行と基盤体制構築による「学びの構造化」の実現 等 | 237 | 207 主体的学びを促すアクティブラーニングの導入率向上 2016:21%→2020:52%→2021:58% Edtech活用に向けたICT活用授業科目の比率向上 2017:5%→2020:63%→2021:65.3% |
| 戦略:研究力強化・産学共創加速 | 1,556 | 1,503 |
| 大学改革促進のための国際研究拠点形成プログラム(RECTOR) | 68 | 68 学長(RECTOR)のリーダーシップによる研究力強化と国際共同研究を推進 国際共著論文数86%増及びTop10論文数157%増(2015-2017→2019-2021) |
| 若手研究者育成支援パッケージ(次代の先導者となる若手リーダーの育成 等) | 228 | 214 選定した「次世代研究育成グループ」「研究拠点形成グループ」合計57グループへのURA等の支援効果 競争的資金獲得額85%増(実施前2014-2017→実施期間2018-2021) |
| 研究拠点組織整備(異分野基礎科学研究所の設置による基礎科学研究の飛躍的発展 等) | 347 | 347 物理学・生命科学分野での研究基盤が強化、岡山大学の国際ランキングが上昇 |
| 研究大学としてのマネジメント改革(研究大学強化促進とイノベーション創出環境強化) | 914 | 875 共同研究における費用負担適正化の取組により間接経費比率32%達成(2021) |
| 戦略:大学経営改革 | 220 | 199 地域課題の解決と新たな産学連携体制の構築 等 |
| イノベーション・エコシステム構築に向けた大学収入構造改革 等 | 100 | 85 ワーマン・デュニア・トラック制度など環境構築 ポストアッセイ制度による女性研究者上位職登用者数:17人(2016-2021)/女性教員比率:第2期中期目標期間末比11.4%増 産官学会議が参画した「国際学都おかやま創生本部」「おかやま円卓会議」などを活用して地域における課題解決、まちづくり事業展開を推進 地域から10件(2021)の相談受付、学内シーズとのマッチング実施 環境賦課金の有効活用により、老朽化など環境負荷の高くなつたインフラ更新などを通じ、持続可能なキャンパス環境へのリバーナシヨンを実施し、年間CO ₂ 排出量75.87t-CO ₂ 、年間光熱費2,922千円削減 |

(補足1)全学的な機能強化関連予算を対象とし、機能強化経費や主な機関補助等を含む。ただし科研費等の競争的資金は含まない。

(補足2)国際関係の派遣・受入を中心に、新型コロナウイルス感染症による活動制約の影響がインプットデータ等で確認できる。

安全・安心な教育研究環境の確保

市街地に広く緑豊かなキャンパスを保有する総合大学として、キャンパスマスターplanに基づき、「安全の確保」、「多様な教育・研究への対応」、「国際化対応」、「地域・社会への貢献」などの視点に立ったキャンパス整備を行っています。

寄付により整備したJテラスやJホールは、学内外の多くの方に利用されています。また、2021年度には、光・放射線情報解析部門津島施設や歯学部棟I期の改修整備が完成し、教育研究のさらなる機能強化を図っています。

安全安心な教育研究環境の確保については、建物の耐震化を概ね完了し、施設の維持管理の中長期的な取り組みの方向性を示す「インフラ長寿命化計画」に基づき、照明、空調等の改修を行っています。また、保有する施設を最大限に活用するため、戦略的リノベーションによる改善整備で長寿命化を図っています。今後は老朽対策・非構造部材の耐震対策をさらに進めるとともに、ライフラインの老朽対策を強化し、キャンパス全体の強靭化を図ります。



Jテラス



キャンパスマスターplan



照明のLED化



<http://www.okayama-u.ac.jp/user/shisetsu/files/index/kobetsushisetsukeikugaiyou2.0>

<http://www.okayama-u.ac.jp/user/shisetsu/files/index/cmp2022.pdf>



起工式(共育共創コモンズ)



講義室(共育共創コモンズ)



https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id11179.html

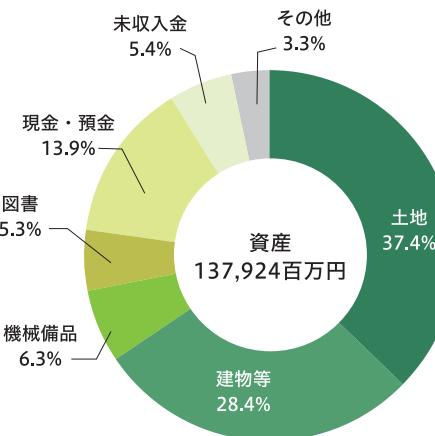


財務情報

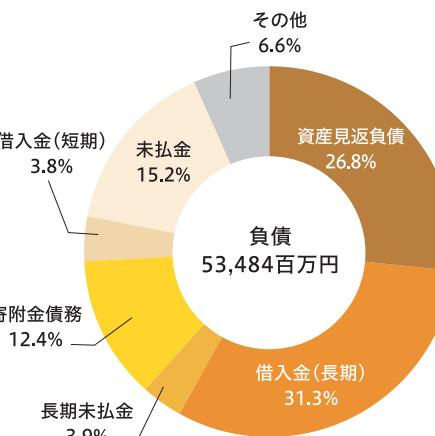
貸借対照表の概要(2021事業年度)

(単位:百万円、単位未満切捨て)

| 資産の部 | 2017年度 | 2018年度 | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 | 対前年度増減 |
|-----------|---------|---------|---------|---------|---------|--------|
| 固定資産 | 118,708 | 113,558 | 112,793 | 110,553 | 110,934 | 381 |
| 土地 | 51,963 | 51,904 | 51,835 | 51,593 | 51,593 | - |
| 建物等 | 47,434 | 43,586 | 40,445 | 39,781 | 39,138 | △642 |
| 機械備品 | 9,307 | 8,097 | 9,404 | 9,018 | 8,665 | △352 |
| 図書 | 7,594 | 7,513 | 7,461 | 7,401 | 7,361 | △40 |
| 建設勘定 | 93 | 143 | 903 | 394 | 1,588 | 1,193 |
| その他有形固定資産 | 156 | 154 | 153 | 155 | 201 | 46 |
| 無形固定資産 | 520 | 420 | 363 | 294 | 379 | 85 |
| 投資その他の資産 | 1,637 | 1,737 | 2,224 | 1,913 | 2,006 | 92 |
| 流動資産 | 17,753 | 17,491 | 17,959 | 21,080 | 26,990 | 5,910 |
| 現金・預金 | 11,130 | 10,739 | 11,179 | 13,582 | 19,207 | 5,625 |
| 未収入金 | 6,342 | 6,429 | 6,434 | 7,018 | 7,418 | 399 |
| 有価証券 | - | - | - | 100 | - | △100 |
| その他 | 280 | 322 | 345 | 378 | 364 | △14 |
| 資産合計 | 136,461 | 131,049 | 130,752 | 131,633 | 137,924 | 6,291 |



| 負債の部 | 2017年度 | 2018年度 | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 | 対前年度増減 |
|----------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 固定負債 | 39,163 | 36,036 | 36,788 | 34,241 | 33,723 | △518 |
| 資産見返負債 | 13,988 | 13,273 | 13,699 | 13,404 | 14,309 | 904 |
| 借入金 | 23,123 | 21,137 | 19,204 | 17,287 | 16,752 | △535 |
| 長期未払金 | 1,611 | 1,148 | 3,298 | 2,970 | 2,063 | △907 |
| その他 | 440 | 477 | 586 | 578 | 598 | 19 |
| 流動負債 | 16,662 | 16,123 | 16,816 | 18,367 | 19,760 | 1,393 |
| 運営費交付金債務 | 63 | 148 | 19 | 74 | - | △74 |
| 寄附金債務 | 4,886 | 5,673 | 5,824 | 6,210 | 6,644 | 434 |
| 借入金 | 2,065 | 1,986 | 1,933 | 1,926 | 2,039 | 112 |
| 未払金 | 7,274 | 5,742 | 6,584 | 7,487 | 8,145 | 657 |
| その他 | 2,372 | 2,572 | 2,454 | 2,667 | 2,930 | 262 |
| 負債合計 | 55,825 | 52,160 | 53,605 | 52,609 | 53,484 | 875 |



| 純資産の部 | 2017年度 | 2018年度 | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 | 対前年度増減 |
|----------|---------|---------|---------|---------|---------|--------|
| 資本金 | 69,804 | 69,798 | 69,764 | 69,642 | 69,642 | - |
| 資本剰余金 | 4,473 | 2,870 | 1,213 | 1,325 | 1,705 | 380 |
| 利益剰余金 | 6,357 | 6,219 | 6,168 | 8,057 | 13,092 | 5,035 |
| 純資産合計 | 80,636 | 78,888 | 77,146 | 79,024 | 84,440 | 5,415 |
| 負債・純資産合計 | 136,461 | 131,049 | 130,752 | 131,633 | 137,924 | 6,291 |

注)各額は単位未満を切り捨てているため、計は一致しない場合があります。注)数字がないときは「-」、単位未満の時は「0」で表示しています。

主な増減要因

- 資産は、1,379億2,400万円と前年度より62億9,100万円増加しています。主に、補助金の受入増により「現金・預金」が増加したためです。
- 負債は、534億8,400万円と前年度より8億7,500万円増加しています。主に、建物・機械備品等の取得により「資産見返負債」が増加したためです。
- 純資産は、844億4,000万円と前年度より54億1,500万円増加しています。主に、経営努力等による利益の増加により「利益剰余金」が増加したためです。

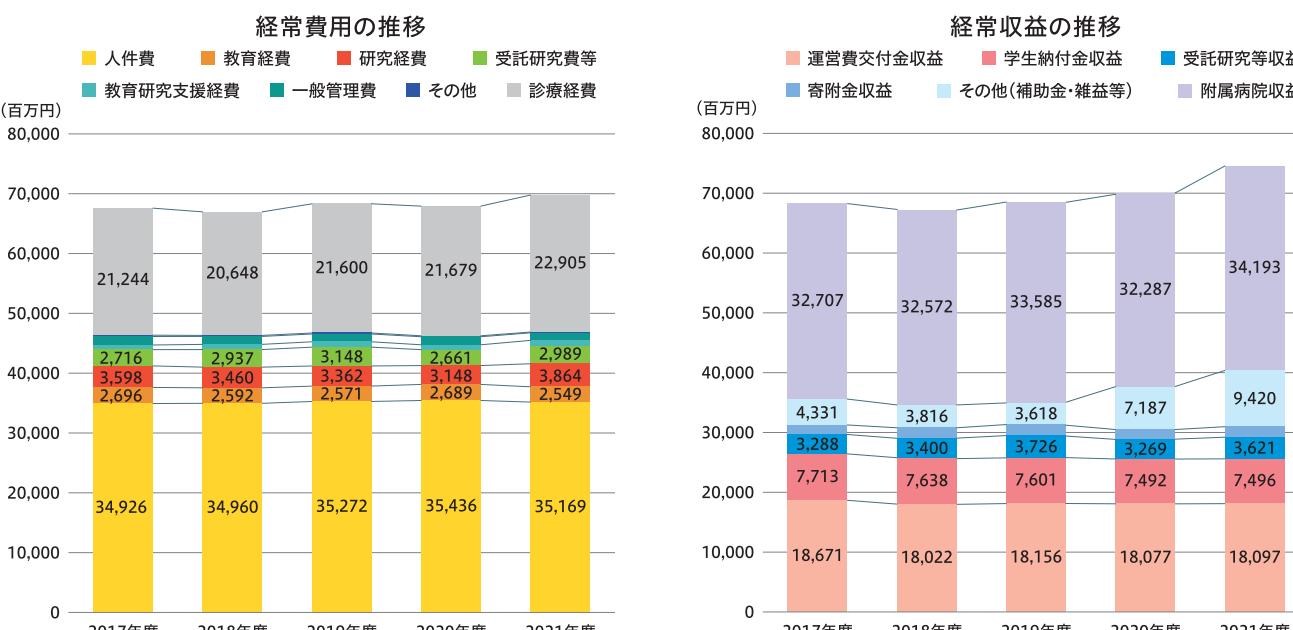
本学の財務諸表につきましては、右記のウェブサイトに掲載しています。 <https://www.okayama-u.ac.jp/tp/profile/zaimusyohyou.html>

損益計算書の概要(2021事業年度)

(単位:百万円、単位未満切捨て)

| 損益計算書 | 2017年度 | 2018年度 | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 | 対前年度増減 |
|----------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 経常費用 | 67,598 | 66,966 | 68,322 | 67,929 | 69,788 | 1,859 |
| 教育経費 | 2,696 | 2,592 | 2,571 | 2,689 | 2,549 | △139 |
| 研究経費 | 3,598 | 3,460 | 3,362 | 3,148 | 3,864 | 716 |
| 診療経費 | 21,244 | 20,648 | 21,600 | 21,679 | 22,905 | 1,225 |
| 教育研究支援経費 | 776 | 867 | 898 | 810 | 916 | 105 |
| 受託研究費等 | 2,716 | 2,937 | 3,148 | 2,661 | 2,989 | 327 |
| 人件費 | 34,926 | 34,960 | 35,272 | 35,436 | 35,169 | △267 |
| 一般管理費 | 1,424 | 1,329 | 1,299 | 1,345 | 1,264 | △81 |
| その他 | 215 | 170 | 170 | 157 | 129 | △27 |
| 経常収益 | 68,304 | 67,178 | 68,534 | 69,965 | 74,586 | 4,620 |
| 運営費交付金収益 | 18,671 | 18,022 | 18,156 | 18,077 | 18,097 | 19 |
| 学生納付金収益 | 7,713 | 7,638 | 7,601 | 7,492 | 7,496 | 4 |
| 附属病院収益 | 32,707 | 32,572 | 33,585 | 32,287 | 34,193 | 1,906 |
| 受託研究等収益 | 3,288 | 3,400 | 3,726 | 3,269 | 3,621 | 352 |
| 寄附金収益 | 1,591 | 1,727 | 1,845 | 1,652 | 1,756 | 104 |
| その他 | 4,331 | 3,816 | 3,618 | 7,187 | 9,420 | 2,233 |
| 経常利益 | 705 | 211 | 211 | 2,036 | 4,797 | 2,760 |
| 臨時損失 | 48 | 165 | 190 | 67 | 35 | △31 |
| 臨時利益 | 19 | 126 | 156 | 107 | 335 | 227 |
| 当期純利益 | 676 | 172 | 176 | 2,077 | 5,097 | 3,020 |
| 目的積立金取崩額 | 150 | 50 | 46 | 48 | 39 | △9 |
| 当期総利益 | 827 | 223 | 223 | 2,125 | 5,136 | 3,010 |

注)各額は単位未満を切り捨てているため、計は一致しない場合があります。注)数字がないときは「-」、単位未満の時は「0」で表示しています。

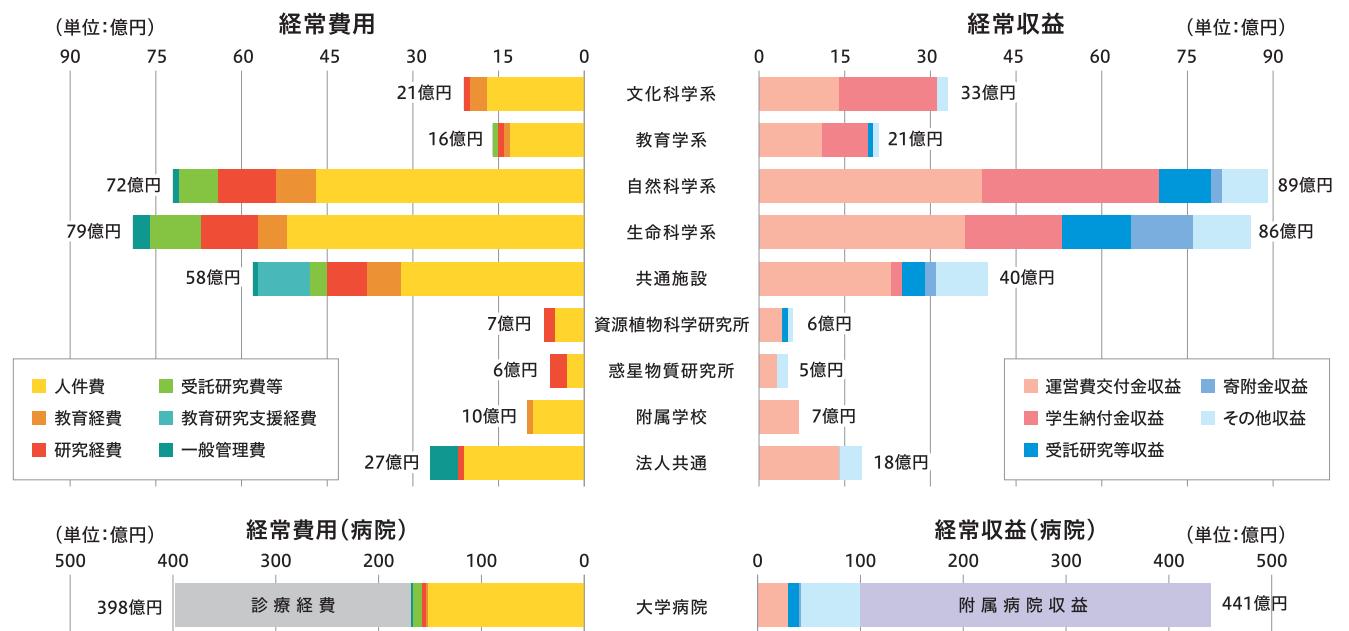


主な増減要因

- 経常費用は、697億8,800万円と前年度より18億5,900万円増加しています。主に、高額医薬品の使用量増加等により「診療経費」が増加したこと、歯学部棟改修に伴う移転費の増加等により「研究経費」が増加したためです。
- 経常収益は、745億8,600万円と前年度より46億2,000万円増加しています。主に、補助金の受入額の増加により「補助金等収益」が増加したこと、高額医薬品の使用量増加等による診療報酬請求額の増加等により「附属病院収益」が増加したためです。

セグメント情報の開示

本学では、詳細な財務情報を開示するため、財務諸表(附属明細書)において、学系別セグメント情報を開示しています。これにより、学問分野ごとの規模や財政構造の違いなどを伝えすることができます。



各セグメントに属する主な組織

文化科学系 文学部、法医学部、経済学部、社会文化科学研究科、法務研究科、社会文化科学学域、法務学域
教育学系 教育学部(附属学校を除く)、教育学研究科、教育学域
自然科学系 理学部、工学部、環境理工学部、農学部、自然科学研究科、環境生命科学研究科、ヘルスシステム統合科学研究科、自然科学学域、環境生命科学学域、ヘルスシステム統合科学学域
生命科学系 医学部、歯学部、薬学部、医歯薬学総合研究科、保健学研究科、医歯薬学域、保健学域
共通施設 異分野基礎科学研究所、文明動態学研究所、全学センター、附属図書館、機構、本部のうち学務部及び国際部

国立大学法人特有的会計処理

国立大学法人特有的会計処理として、主に次のような会計処理があります。

◆収入財源別の会計処理

国立大学法人の収入には、運営費交付金、授業料などの学生納付金、附属病院収入などがあります。国立大学法人会計では、これらの収入源(財源)の性質に応じた会計処理を行います。

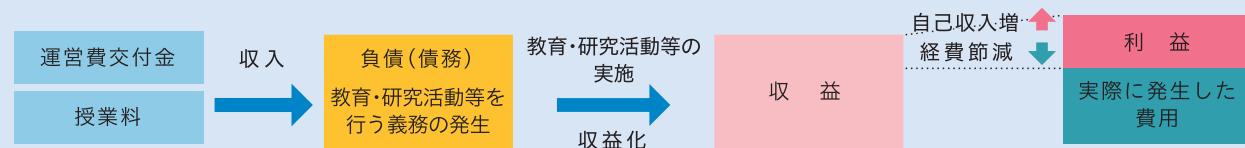


◆損益均衡を前提とした会計処理

国立大学法人は、営利を目的としていないため、運営費交付金や授業料などを財源として、通常の業務(教育研究活動など)を実施すれば、損益が均衡する仕組みとなっています。

運営費交付金や授業料などを受領したとき、業務を実施する義務を負ったと考えて、負債(債務)に計上します。その後、業務の実施により、義務が履行されたとみなし、負債から収益に振り替える会計処理を行います。

なお、附属病院収入などの自己収入の増加や、経費節減などの経営努力により費用を抑えることができた場合には、利益が生じることになります。利益のうち、文部科学大臣の承認を受けた額については、翌年度以降に使用することが可能となります。



企業会計的に見てみると…

ここでは「見える化」に向けた取り組みの一つとして、国立大学法人特有の「損益均衡」を前提としないどのように映るかをテーマに、企業会計に寄せた損益計算書を試作しています。教育研究といった本来業務に基づく費用・収益による損益などを区分して再整理することで、国立大学が置かれている財務状況をストレートにお伝えすべく今後も様々に工夫していきます。

| 2021年度 | | (単位:百万円) |
|---|---|--|
| 営業収益(本来業務に相当する収益) | 45,525 | |
| 学生納付金 受託研究等 販売・サービス収入 その他営業収益 | 7,647 3,621 34,253 2 | 授業料収益、入学金収益、検定料収益等 受託研究収益、共同研究収益、受託事業等収益 附属病院収入、寄宿料収入、公開講座収入等 償却債権取立益 |
| 営業費用(本来業務に相当する費用) | 69,659 | |
| 賃金・給与 退職手当 奨学費 水道光熱費 消耗品及び材料費等 減価償却費 その他営業費用 | 34,078 1,661 1,049 1,422 18,227 4,675 8,544 | 給与、賞与、法定福利費等 授業料等免除、奨学金等 電気料、水道料、ガス料、燃料費 消耗品費、備品費、図書費、材料費等 委託費、手数料、保守費、修繕費、旅費等 |
| 営業利益(損失) | △ 24,133 | |
| 営業外損益(上記以外の損益) | 28,527 | |
| 営業外収益 運営費交付金 補助金 寄附金 研究関連収入(科研費間接経費収入等) 収益事業収入(財産貸付料収入等) その他営業外収益 | 28,657 18,394 6,510 2,214 624 829 83 | 運営費交付金収益(資産見返負債戻入含む) 補助金等収益(資産見返負債戻入含む) 寄附金収益(資産見返負債戻入含む) 科研費間接経費収入、補助金等間接経費収入 財産貸付料収入、財務収益(預金利息等)等 資産見返物品受贈額戻入、弁償違約金収入 |
| 営業外費用 支払利息 その他営業外費用 | △ 129 △ 103 △ 25 | △ 129 △ 103 △ 25 雜損 |
| 経常利益 | 4,393 | 損益計算書の経常利益と施設費収益の差額 |
| 特別損益 | 703 | |
| 施設整備費補助金 その他の特別利益 特別損失 | 403 335 △ 35 | 施設費収益等 固定資産売却益等 固定資産除却損等 |
| 当期純利益 | 5,097 | |
| 損益外減価償却費相当額 | 2,120 | 損益計算書に非計上の当期減価償却費 |
| 損益外減価償却費相当額を加味した当期純利益(純損失) | 2,977 | |

このように整理し直すと、営業損失が241億3,300万円となっており、運営費交付金等の国費による収益など、営業外収益により業務費用を賄う財務構造となっています。このような構造は、本学だけでなく国立大学共通と言えます。これからは、経営基盤を強化して、民間資金をはじめ外部資金のさらなる獲得や営業外の収益を増加させる必要があります。

2021年度は大学病院の営業収益や補助金等による営業外収益が増加したことにより、国立大学法人の標準的な損益計算書では簿外の損益外減価償却費相当額(建物等インフラ老朽化等の影響額)を加味しても当期純利益が29億7,700万円とプラスとなりました。

岡山大学学都基金について

岡山大学学都基金は、本学における学生支援、教育・研究活動、国際交流及び社会貢献活動の一層の充実を図るとともに、新たな価値を創造し続けるSDGs推進研究大学の進展等に資することを目的として設置しています。

岡山大学学都基金 2021年度寄付額

実績報告
[寄付額] 748件 150,191,420円

岡山大学学都基金にご寄付を賜り誠にありがとうございます。岡山大学学都基金へのご寄付は、ご寄付の趣旨に沿った本学の諸活動を支える財源として活用させていただくとともに、本学における学生支援、教育・研究活動、国際交流及び社会貢献活動の一層の充実をはかる事業の支援に充てさせていただいているます。

岡山大学学都基金 2021年度支出額

実績報告
[支出額] 35,452,524円

2021年度は、2020年度に続き、新型コロナウイルス感染症の影響で事業内容を変更した事業がある一方で、引き続き新型コロナウイルス感染症支援として学生支援、研究活動への支援、その他教育・研究活動への支援、国際交流活動への支援などを行うことができました。今後もご寄付の趣旨に沿った事業支援を行ってまいります。

学都基金を活用した学生支援・研究支援

— 博士後期課程大学院生支援 —

入試の成績が優秀な学生に対し経済的支援を行うことにより、大学院博士後期課程への進学を促すために給付型の奨学金を支給しました。

●岡山大学大学院博士後期課程就学支援奨学金(計18人)

支給対象:2019年4月以降に優秀な成績で入学した日本国籍または日本国の永住権を有する学生

支給額:1人あたり年額60万円

●岡山大学大学院博士後期課程遠隔地社会人学生支援奨学金(計4人)

支給対象:2019年4月以降に優秀な成績で入学し、遠隔地から通学する社会人学生

支給額:1人あたり月額1~2万円(職場又は自宅から大学までの距離に応じた額)

— 学都基金奨学金(学部学生への修学支援) —

本学の教育活動の推進及び経済的支援を行うことを目的として「学都基金奨学金」を創設し、支給要件を満たす11人の学生に対して、奨学金を支給しました。

— 学内ワークスタディ事業支援 —

雇用時期の直前に授業料免除を受けた学部学生、大学院生(私費外国人留学生含む)が①~⑦のいずれかの学内業務に非常勤職員として従事することで、職業意識等の育成を図り、より一層の経済的支援を行うための経費の一部を学都基金から支援しました。

①言語カフェの運営支援業務

②附属図書館窓口等業務

③障がい学生の修学支援業務

④学内出土文化財を活用した調査整理業務

⑤外国人留学生支援業務

⑥学生支援業務

⑦研究補助業務

— 岡山大学校友会クラブ活動支援 —

岡山大学校友会の各クラブの活動において、各クラブ独自の部費では賄うことが難しい施設・設備の補修や物品・機材等の購入を中心に支援しました。

— グローバル人材育成特別コース支援 —

グローバル人材育成特別コースを履修する学生で、海外留学、海外研修等の海外派遣により、所定の申請資格を満たしたものについて、グローバル人材育成院において審査及び支給者の決定を行い、奨学金を支給しました。

— ダイバーシティ&インクルージョン推進活動支援 —

ダイバーシティ推進本部で2021年5月に制定した「ダイバーシティ&インクルージョンポリシー」に基づき、D&I企画推進委員会と協力して、様々な施策を実施しています。特に男女共同参画室では、ダイバーシティ研究環境の実現を目指した女性教員数の増加、女性教員の上位職への登用の実現に向けて、女性研究者の研究力向上を促すための助成金制度を設けており、学都基金からその一部を支援しました。

新型コロナウイルス感染症関連支援への感謝

本学では、2020年度から、新型コロナウイルス感染症関連の緊急支援として、修学支援、大学病院支援、研究支援、その他支援を行うため、皆様にご協力をお願いし、多くの方から多大なご寄付をいただきました。2021年度も引き続き本基金へのご協力をお願いし、学生の支援、研究支援に活用させていただきました。

●オンライン授業受講のためのインターネット環境確保支援

●学生寮クラスター防止強化支援

●感染予防対策支援(学生への携帯用消毒アルコール)

●学生×地域『食』で応援プロジェクト事業支援



学生に配布したアルコールジェルと大学のロゴマーク入りコードリール



2020年度から続く新型コロナウイルス感染症の影響で、アレバイトなどができず、バランスの取れた食事が取れていらない学生を対象に、お弁当の配布という形で食支援を行いました。

●新型コロナウイルス感染症関連研究支援

三井住友信託銀行株式会社様が、新型コロナウイルス感染症拡大防止に向け、ワクチン・治療薬の開発等を行っている大学の支援を目的として開設した「新型コロナワクチン・治療薬開発寄付口座」への本学へのご寄付に基づき、

①新型コロナウイルス感染症に関するワクチン・治療薬の研究開発

②同感染症の治療方法、診断方法、検査体制等の研究

③その他同感染症を克服するための研究への支援に活用させていただいている。

ステークホルダーの皆様へ

「岡山大学統合報告書2022 -Pay it Forward-」をお読みいただき、ありがとうございます。

本報告書では、第3期中期目標期間の取り組みを振り返り、その特色や課題を整理した上で、

2022年度から始まった第4期中期目標期間における戦略を具体的に説明しております。

また、取り組みや実績については、データとの連動性を意識し、エビデンスに基づく情報となるよう努めております。

本学の課題についても発信し、それをいかに乗り越えていくのか。未来志向を表現するよう心がけました。

本報告書を通じて、本学に対するご理解をさらに深めていただけたら幸いです。

今回で4作目の発行となりますが、本学ならではの特色を盛り込みつつも、統合報告書としてのあるべき形を模索しております。

今後も改善・改良を続けてまいりますので、皆様からの忌憚のないご意見をお寄せください。



岡山大学IR/IE室
Web版統合報告書はこちらからご覧いただけます
<http://www.okayama-u.ac.jp/tp/profile/annual.html>



岡山大学は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています

岡山大学統合報告書2022 Pay it Forward

2022年11月30日発行 【報告対象期間】2021年4月1日～2022年3月31日(一部前後の内容を含みます)

岡山大学統合報告書に関するお問い合わせ先:総務・企画部大学改革推進課 kaikaku@adm.okayama-u.ac.jp

岡山大学SDGsウェブサイト「岡山大学×SDGs」
<http://sdgs.okayama-u.ac.jp/>



ミックス
責任ある木質資源を
使⽤した紙
FSC® C010191
www.fsc.org

この統合報告書の用紙はFSC®認証材および
管理原材で作られております。

